

[史料]

近世アウクスブルクの医師の日記の邦訳 (3・完)

「医師フィリップ・ヘーヒシュテッターの日記」(1597-1635年)

山本 健

Translation of a German Doctor's Diary
in Early Modern Augsburg (3)
— *Das Tagebuch des Augsburger Arztes und
Stadtphysicus Dr. Philipp Hoehstetter, 1579-1635* —

Takeshi YAMAMOTO

〈医師フィリップ・ヘーヒシュテッターの日記〉
(1597 - 1635年)

目次

- | | |
|-----|---------------------------|
| I | はじめに——ヘーヒシュテッター家について |
| II | 史料について (編者の序言より) |
| III | 医師の日記 |
| | 『医師フィリップ・ヘーヒシュテッターの日記』の邦訳 |
| | 第1章 ヘーヒシュテッター家の家譜 |
| | 第2章 フィリップ2世の青少年期 |
| | (A) 身内の不幸に関する出来事 |
| | (B) 教育・就職関係の履歴 |

第3章 フィリップ2世の結婚および家族（子ども）について

- (A) 婚約と結婚
- (B) 15人の子どもの誕生

〈以上、第24号（2011年2月）掲載〉

- (C) 住居に関する覚書

第4章 フィリップ2世時代のアウクスブルク市の諸物価の変動について

- (A) 穀物価格
- (B) 暖房用の木材価格
- (C) 食料品価格
- (D) 30年戦争期（特に、1622年）の価格変動

第5章 医師フィリップ2世の収入について

- (A) 聖カタリーナ修道院での医療勤務
- (B) 施療院での医療勤務と解雇通告そして復職
- (C) 著作物の収入
- (D) 主治医としての収入
- (E) 孤児院での医療勤務
- (F) カトリック教徒の支配下（1635年以降）での収入

第6章 アウクスブルク市内外での政治経済状況

- (A) 慈善活動の制度的な確立過程と新・旧教徒の対立
- (B) アウクスブルク市内外での皇帝承認問題と30年戦争
- (C) 30年戦争下のアウクスブルク市についての筆者の感慨
- (D) 筆者の息子の筆による30年戦争下のアウクスブルク市の状況

〈以上、第25号（2012年2月）掲載〉

第7章 フィリップ2世の妻の親族の誕生年と死亡年について

- (A) 私の舅クリストフ・シュミットの家族
- (B) 義兄弟ハイラート
- (C) 私の姑、および妻方の祖父母

第8章 フィリップ2世の子どもたちへの教育について

第9章 長男の手による補遺（1535 - 1661年）

(A) 両親および姉妹の死去について

(B) 兄弟姉妹たちのその後の消息について

注記

索引

〈以上、本号〉

- (注記) ①訳文の〔 〕内の日本語は、理解を容易にするために訳者が補充したものであり、() は原語である。
- ②各章やその小見出しも、同様な趣旨から訳者が書き加えたものである。
- ③本文の(注)は一括して末尾に、各章ごとにまとめて記した。
- ④原文にない索引(人名、事項そして地名・国名)を本邦訳の9章の末尾に、独立した形式で新たに作成・付記し、掲載分冊番号とページ数を記した。

第7章 フィリップ2世の妻の親族の誕生年と死亡年について

(A) 私の舅クリストフ・シュミットの家族

◆1553年

この年の6月14日に、私の舅クリストフ・シュミット (Christoph Schmid) が生まれた。彼の父親は老シックス・シュミット (Six Schmid der altest) であり、〔彼の母親は〕カタリーネン・マイリン (Catharinen Mayrin) であった。彼女は1526年2月の謝肉祭の前の月曜日に、16歳で結婚した〔したがって、彼女は1510年生まれである〕。彼女は夫、老シックス・シュミットと46年間の結婚生活を共にした。その間に、15人の子どもを授かり、そのうちの10人を失った。それ故に彼らの死後、3人の息子と2人の娘だけが残った。すなわち、〔シュミット家の息子たちとは〕シックス、アブラハム (Abraham) そしてクリストフ〔私の妻の父親：舅〕であり、そして〔娘たちとは〕エリザベート (Elisabeth) とカタリーナ (Katharina) であった。父親は73歳に、母親は62歳に、すなわち老クリストフ・シュミットは1572年7月9日〔享年73歳：1499 - 1572年〕に、その妻カタリーネンも同年11月25日〔享年62歳：1510 - 1572年〕に、死亡した。

(B) 義兄弟ハイラート

◆1578年

この年の8月8日に、私の義兄弟のハイラート (Heyrat) はヴェルシュラント〔スイスのフランス語地方 (Welschland)〕で、未婚の若い女性、アンナ・ゲーベレーリン (Anna Gaebelerin) — 〈彼女はハンス・ゲーベリン (Herr Hans Gaebelin) 氏の娘で、21歳であった。それは、彼女は1557年7月10日 (日曜日) の夜9時半に誕生していたからである。星座は山羊座〉 — と〔結婚の〕話し合いを取り決めた。

彼女の婚約は同年11月6日に商人の寄合い部屋〔会館〕(Kauffleutstuben) で行われ、そして結婚式は11月17日に、上記の商人の寄合い部屋で挙行された。彼らの結婚生活は32年と9週間続いた。何故なら、私の義兄弟ハイラートは1611年1月24日 (月曜日) の夕方6時に死亡し、そして聖シュテファン教会の墓地に埋葬されたからである。彼への弔辞として、教区牧師のM・ヤーコプ・リューリヒ (M. Jacob Ruelich) が聖ウルリヒ教会近くで、讚美歌 (psalm) 25番を読み上げた。

彼らは〔以下のような〕11人の子どもを授かった。

第1子は息子〔長男〕で、ハンス・クリストフ (Hans Cristoff) 〔と命名された〕。彼は1579年8月28日 (金曜日) の10時頃に誕生し、そして同年の11月15日 (金曜日) に、僅か3ヵ月で夭折した。

第2子も息子〔二男〕で、〔長男と同名の〕ハンス・クリストフ 〔と命名された〕。彼は1580年8月5日 (金曜日) の朝8時半に誕生した。星座は双子座。この子は1611年2月7日 (月曜日) の夕方8時に死亡〔享年、31歳〕した。彼の遺体は聖シュテファン教会の墓地に埋葬された。

第3子も息子〔三男〕で、マルクス (Marx) と命名された。彼は1581年8月10日 (木曜日) の早朝3時15分に誕生した。そして彼は1611年9月28日にスイスで死亡〔享年22歳〕した。彼には4人の子どもがおり、まだ妊娠能力のある妻を残しての死亡であった。

第4子は娘〔長女〕で、アンナ・マリア (Anna Maria) 〔と命名された〕。彼女は1582年9月25日の昼2時に誕生した。

第5子は息子〔四男〕で、マテウス (Mattheus) 〔と命名された〕。彼は1584年5月23日 (土曜日) の朝9時に誕生した。星座は魚座。

第6子は息子〔五男〕で、ハンス・ジョルク (Hans Jerg) 〔と命名された〕。彼は1586年2月12日の昼12時半に誕生した。星座は射手座。彼は1590年3月に4歳で夭折した。

第7子は息子〔六男〕で、トビアス (Tobias) 〔と命名された〕。彼は1586年4月15日に誕生したものの、1590年3月17日に、僅か2歳11ヵ月で夭折した。

第8子は娘〔二女〕でスザンナ (Susanna) 〔と命名された〕。彼女は1588年8月9日の朝6時半に誕生した。そして、1611年1月21日の6時頃に死亡〔享年22歳〕した。彼女の夫は〔前記の〕教区牧師、M・ヤーコブ・リューリヒであり、彼が聖ウルリヒ教会で賛美歌73番を弔辞として読み上げた。

第9子は娘〔三女〕で、美しいイエレミアス (Jeremias) である。彼女は1590年6月8日の夕方9時半に誕生した。また1630年11月30日に死亡〔享年40歳〕した。

第10子は娘〔四女〕で、ヨーハン・バプティスタ (Johann Babtista) 〔と命名された〕。

彼女は1591年6月25日の朝6時半に誕生したものの、同年7月1日に僅か6日で夭折した。

第11子は息子〔七男〕で、マールクアルト (Marquart) 〔と命名された〕。彼は1602年7月6日の午後2時45分に誕生し、1611年11月1日の夜7時に麻疹 (Kindsblatter) が原因で死亡〔享年9歳〕した。

(C) 私の姑、および妻方の祖父母

◆1618年

この年の11月3日の夜9時45分に、私の姑が神の許に召された。11月6日に彼女の〔遺体〕は聖シュテファン教会の墓地に埋葬された。〔牧師〕エーインガー (Herr Ehinger) 氏⁽⁶⁷⁾が賛美歌25番を彼女の弔辞として読み

上げた。

◆ 1585年

この年の5月12日（土曜日）の朝方4時に、私の妻方の祖父ハンス・ゲーベリン（Hans Gaebelin）が死亡した。

◆ 1588年

この年の8月14日（日曜日）の朝9時に、私の妻方の祖母カタリーナ（Catharina）が死亡した。

第8章 フィリップ2世の子どもたちへの教育⁽⁶⁸⁾について

◆ 1612年——筆者：33歳、妻：30歳、長男：5歳、長女：4歳

この年の6月26日に、私は〔長男の〕ハンス・マテウスを、アーダム・グムペルスハイマー（Herr Adam Gumpelsheimer）氏⁽⁶⁹⁾が〔教師として〕指導するラテン語学校（Lateinische Schuel）〔の1年生〕に入学させた。神が息子に聖なる精神〔魂〕をお与えになったためであろうか、息子は敬虔な子どもに成長し、何が正義（Recht）で、何が公正（Redlich）なのかを学んだ。〔当時の〕息子はまだ5歳に10日届かない年齢であり、若い徒弟（Jung Gesell）同然の年端の行かない幼児であった。

◆ 1614年——筆者：35歳、妻：32歳、長男：7歳、長女：6歳

この年の5月27日に、長男マテウスはマルティン・グムペルスハイマー（Herr Martin Gumpelsheimer）氏が〔教師として〕指導する第2学年（die andere Schuel）に進級した。神が息子にさらなる素晴らしい能力をお与えになったためであろうか、息子は勤勉で、かつ神を敬う子どもに成長した。

同年の6月1日に、私は長男のために1人の個人的な家庭教師（ein privat paedagogus）を、時給払いを条件に雇用した。〔事実〕私はこの家庭教師に四半期毎に1½グルデンを支払っていた。

同年の5月26日に、私は長女のアンナ・マリアを、N・ハインツェルマン（N. Heintzelman）が指導する〔ドイツ語〕学校に預けた〔入学させた〕（in die Schuel einstellen）。神が長女に素晴らしい能力をお与えになったため

であろうか、長女は勤勉、かつ神を敬い、また如才のない子どもに成長した。そして長女は知識を我が物にした。

◆1615年——筆者：36歳、妻：33歳、長男：8歳、長女：7歳

この年の7月に、長男マテウスは第3学年に進級した (in die Schuel kommen)。

◆1616年——筆者：37歳、妻：34歳、長男：9歳、長女：8歳

この年の8月19日に、長男はダニエル・ブラッシュ (Herr Daniel Brasch) 氏が指導する第4学年に進級した (in die vierte Schuel transferiert)。勉学する上で、彼に神の恩恵と素晴らしい能力が与えらんことを。

◆1617年——筆者：38歳、妻：35歳、長男：10歳、長女：9歳、
三女：5歳

この年に、長男マテウスは第5学年に (in die 5 Clas) 進級した。彼に神のさらなる恩恵があらんことを。また同年の復活祭の間に、三女スザンナは〔長女と同じ〕N・ハインツェルマンが指導する〔ドイツ語〕学校に入学した。彼女に神の恩恵と聖なる魂〔精神〕が授かったためであろうか、三女は敬虔な子どもに成長した。

この年の5月22日に、私は幼い長女マリアをブッヘリン婦人 (Frau Bucherin) に預けた。長女は〔彼女から〕針仕事〔裁縫仕事 (die Nehet)] を教えてもらった。彼女に神の恩恵があらんことを。

◆1618年 (30年戦争の開始年)——筆者：39歳、妻：36歳、

長男：11歳、長女：10歳、三女：6歳、三男：5歳

この年の四旬節の季節に、長女マリアは〔再び〕ブッヘリン婦人の許に預けられ、針仕事〔裁縫〕を学んだ。

また同年の復活祭の季節に、私は長男マテウスを〔上記のダニエル・〕ブラッシュ氏の許に行かせて、反復練習〔補修教育 (in die repetition)] と書き方 (Schreiben) を勉強させた。そして自宅では、1人の家庭教師 (praceptor) を雇って、長男と長女の2人に書き方を教えさせた。

同年の7月3日に、三男のハンス・フィリップが学校に入学した。それは、三男の短気な性格 (Gasen) を治すために、預けられたのである。

同年の9月に、長男はモイゼス・ヘルマン (Herr Moyses Hermann) 氏が指導する第6学年 (die 6 Schuel) に進級した。

◆ 1620年——筆者：41歳、妻：38歳、長男：13歳、長女：12歳、
三女：8歳、三男：7歳

この年に、長男マテウスは第7学年 (in die 7 Schuel) に進級した。また三男フィリップは第2学年 (die andere Schuel) に進級した。彼らの教師 (praeceptor) はそれぞれ、〔前記の〕マルティン・グムベルスハイマー氏とイエーネス・ジェロニムス・バイール (Jenes Jeronymus Bayr.) 氏であった。三男は反復練習〔補修教育〕のために後者〔の教師〕の許に通っていた。

◆ 1621年——筆者：42歳、妻：38歳、長男：14歳、長女：13歳、
三女：9歳、三男：8歳

この年の秋期に、私はヨハネス・ベルンハルト・グラス (Johannes Bernhart Grass) を長女マリア、三女スザンナそして三男フィリップの個人的な家庭教師に雇った。また私は長男マテウスに書き方を学ばせるべくレオンハルト・シュスター (Leonhart Schuster) の許に通わせた。

同年の秋期に、三女スザンナはブッヘリン婦人の許に預けられ、〔彼女から〕針仕事〔裁縫仕事 (die Nehet)〕を教えてもらった。

同年の11月29日に、私の妻は長女をフィリピーナ・ヴィンターリン (Philippina Winterin) の許に、針仕事〔裁縫〕をするために預けた。

◆ 1622年——筆者：43歳、妻：40歳、長男：15歳、長女：14歳、
三女：10歳、三男：9歳

この年の2月22日に、三男フィリップはN・ハイポルト (N.Heippolt) が指導する第3学年 (die dritte Class) に進級した。彼は、神の御慈悲により、勉学に勤しむことができた。

同年の10月に、長男マテウスは講堂〔講義室 (das Auditorium) で聴講する〕すなわち第8学年 (die achate Schuel) に進級した。教師たちはダニエル・ヘーシェル (Daniel Herschel) とM・エリアス・エーインガー (M. Elias Ehinger) である。後者〔の教師〕はアウクスブルク市の公僕 (publicus)⁽⁷⁰⁾でもあった。

この〔秋の〕時期に、私は三男に書き方を学ばせるべく、レオンハルト・シュスターの許に、時間外〔放課後 (nach der Stundt)〕に、通わせた。

◆1623年——筆者：44歳、妻：41歳、長男：16歳、長女：15歳、
三女：11歳、三男：10歳

この年の10月7日に、私は三男フィリップをアーノルド・ペリケオ (Herr Arnold Pelliceo) 氏が指導する第4学年 (die vierte Class) に進級させた。私はこの息子に反復練習〔補修教育〕をさせるために、10時から11時の1時間、ペリケオ氏の許に通わせた。

同年の秋期には、三女スザンナが再び〔ブッヘリン婦人の許での〕針仕事〔裁縫仕事〕を辞して、家に戻った。彼女は家で働き、かつ針仕事をした。

◆1624年——筆者：45歳、妻：42歳、長男：17歳、長女：16歳
三女：12歳、三男：11歳

この年の3月4日に、三女スザンナが針仕事に雇用された。

また4月には、長女マリアがフィリピーナ・ヴィンターリンの許での針仕事を辞して、家に戻った。〔2年5ヵ月働いた〕彼女には13グルデン20クロイツが支払われた。

同年の3月4日に、三男フィリップはアブラハム・ニッゲル (Abraham Niggel) の許に、書き方を学ぶために預けられた。〔そのためか〕同年の9月28日に、三男はダニエル・ブラッシュ (Daniel Brasch) が指導する第5学年 (die finfte Class) に進級した。

同年の10月1日に、私は長男マテウスに算数 (Rechnen) を学ばせるべく、彼を〔上記の〕アブラハム・ニッゲルの許に預けた。同10月31日に、私は長男を聖アンナ教会の〔ラテン語〕学校から、ヨハン・ザーラー (Herr Johann Saler) 氏が指導する私塾〔個人経営の〈ドイツ語〉学校 (eine private Schuel)〕に入学させた。ここで、長男に表現方法〔言葉遣い (stylus)〕や討論〔対話〕術 (dialectica) を学ばせた。このザーラーなる教師は、D・レーメン (Herr D. Remen) 氏の許で勉学に励んだ人物であった。長男に神の恩恵があらんことを。

◆ 1625年——筆者：46歳、妻：43歳、長男：18歳、長女：17歳、
三女：13歳、三男：12歳、八男：6歳

この年の2月25日に、三女スザンナにリュウマチ痛 (zum Reissen) が発病した。この少し前の2月21日に、彼女は〔約1年間にわたって働いていた〕針仕事を辞めていた。彼女には四半期ごとに、2グルデンが支払われていた。それは、彼女がレースの服〔レース編み (spitz)〕や同様な模様の〔服を〕縫っていた〔報酬である〕からである。

同年の5月5日に、長男マテウスはヴェネツィアの〔都市貴族〕マテオ・シュミット (Mattheo Schmidt) の許に遣わされる。それは、彼が〔以後〕2年間、親の金でヴェネツィアで暮らし〔商業をはじめ、幅広く世間を学び〕、その後、ある貴族に仕えることが予定されているからだ。神が彼に幸運、健康、繁栄、恩恵そして分別をお与えになったためであろうか、彼は誤った方向へ惑わされることはなかった。

同年の5月7日に、彼は上級学校 (eine hohe Schuel) に入学した。つまり、書き方〔の勉強〕は終了したのであった。

同年の6月2日に、八男カールが第1学年 (die erste Schuel) に入学した。彼に神の恩恵と助力があらんことを。

同年の9月27日に、三男フィリップはフリードリヒ氏 (Herr Friderich) が指導する第6学年 (die 6 Class) に進級した。彼に神の恩恵があらんことを。この三男も反復練習〔補習教育〕のために、〔前記の〕ザーラー氏の許に通った。また、彼は、書き方ために聖アンナ教会近くのヨハン・ハインツェルマン (Johan. Heintelmann) の許に通った。

◆ 1626年——筆者：47歳、妻：44歳、長男：19歳、長女：18歳、
三女：14歳、三男：13歳、八男：7歳、四女：5歳

この年の1月7日に、私は、八男カールと四女ヘレーナのために、バルヘルム・エックハルト (Barhelme Ekhart) を個人的な家庭教師に雇い入れ、〔毎日〕1時間 (pro 1 Stundt) 勉強させようと努めた。この家庭教師には、四半期ごとに2グルデンを支払った。〔そのおかげでか〕八男は9月26日に第2学年に進級できた。

同年の10月6日に、私は三男フィリップのために、〔前記の〕ヨハン・ザーラー氏を家庭教師 (zum praecceptor domestic) に雇い入れ、〔毎日〕2時間 (pro 2 Stundt) 勉強させた。ローレンツェン家の (die Lorentzen) 2人〔の子どもたち〕もこの勉強に加わっていた。

◆1627年——筆者：48歳、妻：45歳、長男：20歳、長女：19歳、
三女：15歳、三男：14歳、八男：8歳、四女：6歳

この年の6月7日に、私は幼い四女ヘレーナをN・ハインツェルマン (N. Heintzelman) が指導するドイツ語学校 (in die teutschen Schuel) に預けた〔入学させた〕。神の恩恵があらんことを。

同年の7月3日に、〔ヴェネツィア在住の〕マテオ・シュミットに、長男の〔教育費の〕最後の残金100ライヒス・ターラー (Reichsthaler) が支払われた。長男にさらなる神の助力が与えられんことを。したがって、〔長男マテオスのヴェネツィアでの教育費は、最終的に〕200ライヒス・ターラーに上った。

同年の10月25日に、三男フィリップが第7学年に (in die 7 Class) 進級し、また同日、八男カールは第3学年に (in die 3 Class) 進級した。この2人に神の恩恵と祝福があらんことを。

◆1628年——筆者：49歳、妻：46歳、長男：21歳、長女：20歳、
三女：16歳、三男：15歳、八男：9歳、四女：7歳

この年の10月16日に、八男カールは書き方を学ぶべく預けられた。何故なら、ペストという疫病 (contagium pestis) がひどく蔓延したためである。つまり、私は同年の終期に、すべてのわが子を家に引き留め〔て、外出させなかつ〕た。バルトロメウス・エックハルト (Bartholmeus Eghart) が上級学校を訪れ、〔前記の〕ザーラー氏に、ペストが終息するまで、〔学生に〕外出を控えるように指導するよう要請したからであった。

なんと、学校〔教育〕にとってひどい時代であることよ！

◆1629年——筆者：50歳、妻：47歳、長男：22歳、長女：21歳、
三女：17歳、三男：16歳、八男：10歳、四女：8歳

この年の1月1日に、私は三男フィリップを勉学のため福音学校 (das

Collegium Evangelicum) へ通わせた。同年の3月8日に、八男カールが第4学年に進級した。この2人の子らに神の聖なる魂と正義があらんことを。

同年の5月1日に、長男マテウスが領主ハンス・ゲオルク (Herr Hans Georg) と領主ダビット・ヴォルフエン・ツウ・アイスネン (Herr David Wolfen zu Eisnen) の館に住み込み、6年間の従者に (ein Diener pro 6 Jahre) 取り立てられた。そして、彼は主人たちの野営地からフィレンツェに派遣された。それゆえに、彼は〔現実〕に領主の従者になったのであった。〔事実〕5月26日に彼はヴェネツィアを出立し、5月30日に〔フィレンツェ〕に到着した。それゆえ、彼は〔その旅の間〕神から幸運と平常心、祝福と身体的な健全さを頂いたにちがいない。

同年の6月9日には、私は長男について、〔敵方に捕らえられ〕1500グルデンと引き換え〔に解放されるという身柄引き渡し〕事件が生じたのかと心配したが、神のご加護で、その必要がないことが判明した。

同年の9月22日に〔皇帝フェルディナント2世がローマ教会財産回復勅令 (restitutionsedikt) を発布し⁽⁷¹⁾、プロテスタント系の諸々の〕学校が閉鎖されたので、私は三男フィリップをヨハン・ザーラー氏の許に通わせ、1時間、対話術を教えてもらう。それから9月24日に、クリストフ・ヴィースト (Christoph Wiest) — 〈彼はかつて、ドイツ語学校の教師 (ein Tuetscher Schuelmeister)〉 — に頼んで、八男カールと四女ヘレーナに1時間、書き方を教えてもらった。これらの報酬は時給2グルデンであった。また、私は三男フィリップを〔前記の〕ザーラー氏の許で、1時間、対話術の知識 (dialecticae cognitionem) をより詳しく学ばせた⁽⁷²⁾。

◆1630年——筆者：51歳、妻：48歳、長男：23歳、長女：22歳、
三女：18歳、三男：17歳、八男：11歳、四女：9歳

この年、長男マテウスは主人に付き従って、ヴェネツィアに赴いた。それゆえ、彼はヴェネツィアである程度の時を過ごす〔=滞在する〕羽目になった。それは、ペストに襲われ、さらにペストに包囲されてしまったからである。このために、彼は同地で、1年と1日〔丸1年〕留まらざるを得なかった。彼が私たちの家〔=アウクスブルク市〕に戻って来たのは、

翌〔1631〕年の10月25日であった。

◆1631年——筆者：52歳、妻：49歳、長男：24歳、長女：23歳、
三女：19歳、三男：18歳、八男：12歳、四女：10歳

この年の6月11日に、ヨハン・ザーラー氏は教師の用事で（ad functionem scholasticam）リンダウ市（Lindau）に旅立った。彼は同市の教師団体〔の館〕（rectoratus）を訪れた。

私は八男カールを、かつて〔前記の〕ザーラー氏の指導の許で学んだように、ダニエル・ヘーシェル（Herr Daniel Heschel）氏とアントーニオ・シュテンゲルン（Herr Anthonio Stengel）氏の指導の許で学ばせた。また、私は彼にも書き方を教えてくれる帳簿係り〔ないし書記〕（Schreiber）を〔家庭教師として〕雇い入れた。彼への報酬は時給3グルデンであった。やがて〔この教え方の下手な〕無能者（der Wiesten）を解雇した——〈この者の名前は忘れたが、カトリック教徒（Ketterlin）であったことは覚えている〉——。

同年の10月25日に、長男マテウスは偉大なる神の恩恵によって、ヴェネツィアから撤退し、アウクスブルク市に戻ってきた。——〈この当時、大規模な疫病〔ペスト〕がイタリア全土を、特にヴェネツィアを席卷し、何千人もの命を奪っていたからである〉——長男は12月7日まで〔アウクスブルク市の〕我が家に滞在していた。その後イスネン（Isnen）に出発し、12月10日に同地に到着した。神は長男に恩恵を施し、無事に到着させたのであった。

◆1632年——筆者：53歳、妻：50歳、長男：25歳、長女：24歳、
三女：20歳、三男：19歳、八男：13歳、四女：11歳

この年の4月20日に、スウェーデン国王アドルフ・グスタフ⁽⁷³⁾がアウクスブルク市を降伏させ、そして占領した。その後、同国王は聖アンナ教会の傍にある諸学校の封鎖を解除した。

同年の6月7日に、八男カールはガイガー（Geiger）が指導する第6学年に進級した。

無頼漢〔カトリック教徒（Ketterlin）〕たちが書記局（die Cantzlei）に乗り込んで来て、そして私に抗議をした。

同年の1月に、長男マテウスがフィレンツェに到着した。

同年の7月2日の午後、三男フィリップはストラスブル（Strasburg）にある上級学校へ入学すべく、ここアウクスブルクを出発した。そして7月7日に、神の護衛の下、もちろん、〔この当時は、30年〕戦争という状況下であり、危険が無いわけではなかった（non periculo belli causa）が、〔ともかくも〕ストラスブルに〔無事〕到着した。三男に神の聖なる魂が授かり、そして彼が満足のいくまで勉学に勤しむことができますように。

同年の9月22日に、私はフィリップ・アイゼリン（Philipp Eiselin）を書き方の教師（Schreiber）として雇い入れた。彼には四半期ごとに3グルデンを支払った。〔しかし〕この者は〔とんだ食わせ者であり〕まったくの不真面目な人物であった。私は〔しかたなく〕八男カールを聖アンナ教会に通わせ、書き方と算数を学ばせた。

◆1635年——筆者：56歳、妻：53歳、長男：28歳、長女：27歳、
三女：23歳、三男：22歳、八男：16歳、四女：14歳

この年の9月10日に、三男フィリップがストラスブルから、大きな危険にさらされながらも、バーゼル市、チューリッヒ市、ザンクト・ガレン市そしてリングダウ市などを經由してアウクスブルク市に帰還した。この〔帰国した〕三男のことを、私は〔ここに〕報告したいのである。

——〈ここで、医師フィリップ2世・ヘーヒシュテッターの筆による記録は終わっている。以下のさらなる記録は、彼の長男ハンス・マテウスの筆によって記録されたものである〉——

第9章 長男の手による補遺（1535 - 1661年）

（A）両親および姉妹の死去について

（a）父の死亡（1635年）

◆1635年——母：53歳、私（長男）：28歳、長女：27歳、
三女：23歳、三男：22歳、八男：16歳、四女：14歳

この年の11月19日に、私の愛しい父親にして医師フィリップ・ヘーヒシュテッターが当地アウクスブルク市で神の御許に召された〔享年56歳〕。

神は父に対して神の永遠なる力〔復活〕を授け、そして私たち〔残された者〕には父の靈魂の消滅を宣告なされた。

残された者たちとは、〔以下のごとし。〕

・夫を亡くしたアンナ・マリア・ヘーヒシュテッター：彼女はシュミット家の出身者であり、父の愛する妻である。53歳。彼女〔寡婦〕は〔現在〕以下の子どもたちと共に暮らしている。

・長男：ハンス・マテウス……………28歳

・長女：アンナ・マリア……………27歳

・三女：スザンナ……………23歳

・三男：ハンス・フィリップ………22歳

・八男：ハンス・カール……………16歳

・四女：ヘレーナ……………14歳

(b) 姉妹（長女と三女）の死亡（1635年）

この年の11月20日に、三女スザンナが厄介で、悪質な疫病〔ペスト〕で死亡した〔享年23歳〕。彼女に神の喜ばしき復活があらんことを。

また〔2日後の〕22日には、長女アンナも〔スザンナの後を追うように〕死亡し、永眠した〔享年27歳〕。この長女にも神の大いなる平穩があらんことを。

(c) 母親の死亡（1636年）

この年の2月7日の午後3時頃に、私の愛しい母親アンナ・マリアは安らかに神の御許で永眠した〔享年56年〕。母に全能なる神の喜ばしい復活があらんことを。また神は私たち〔残された者たち〕に〔母の〕靈魂の消滅を宣告なされた。

残された者たちとは、〔以下の〕4人の子どもたちである。

・長男マテウス〔商人で〕既婚者………31歳

・三男フィリップ〔医学生〕……………25歳

・八男カール……………19歳

・四女ヘレーナ……………17歳

(B) 兄弟姉妹たちのその後の消息について

◆1636年——母：54歳、私：29歳、三男：23歳、八男：17歳、
四女：15歳

この年の12月19日に、私マテウスはフィレンツェから、立派なシルクハット (Esse) をかぶってアウクスブルクの家に戻ってきた。それは、私の主人〔領主〕との奉公〔契約が失効し、その〕義務から解放されたからである。

◆1637年——母：55歳、私：30歳、三男：24歳、八男：18歳、
四女：16歳

この年の3月19日に、三男フィリップがイタリアのパドヴァ (Padpva) 大学〔医学部〕で学位を取得した。

同年の4月14日に、三男はパドヴァの、彩色された井戸の近くに住む都市貴族マテオ・モリナーリ・ベデッロー殿 (Signore Mateo Molinari Bedello) の許に、賃貸部屋 (camera locante) を借りた。

同年の6月22日に、私は貴族の名誉をもち〔名望家で〕、徳の篤い娘たるエリザベート・シュタムレーリン (Elisabeth Stamlerin) ——〈彼女は〔今では〕故人たる貴族 (der Edel) ジークムント・シュタムラー (Sigmundt Stamler) の正当な〔嫡出の〕一人娘〉——と結婚した。そして、福音主義者たちの〔聖アンナ教会の〕講堂で (im collegio) 〔皆に祝福されて〕結婚式を挙げた。

◆1638年——私：31歳、三男：25歳、八男：19歳、四女：17歳

この年の6月9日に、八男カールは彼の後見人によってイタリアのパドヴァ市へ、すなわち、彼の兄〔三男フィリップ〕の許に遣わされた。彼は、神の恩恵によって、兄の許に無事に到着した。彼の目的に良き結果が伴いますように。

同年の12月13日に、門閥酒房寄合い選挙 (Stubenwahl) が都市貴族 (Herr Patricis) たちによって行われた。そして私は都市貴族寄合いの中で (in deren sodalitas)、私が敬愛する〔故人になった〕父親の〔かつての〕地位に〔就任することを〕宣誓させられた。私とはハンス・マテウス・ヘー

ヒシュテッターである。

◆1639年——私：31歳、三男：25歳、八男：19歳、四女：17歳

この年の2月22日に、八男カールがパドヴァから〔西に約70kmに位置する〕ヴェローナ (Verona) へ赴き、都市貴族レアンドロ・ジオ・バティスタ・オリヴィエ殿 (Signor Leandro Gio Batista Olivieri) と都市貴族ビージュ・ボスケッティ殿 (Signor Biagio Boscheti) の書記 (Scriptor) の許に滞在することになった。その際〔上記の〕オリヴィエ殿は100ターラーという大金〔の支払い〕を条件に、カールの〔1年間の〕滞在を認めたのであった。神の恩恵で、彼〔八男〕が時間とお金を有効に使わんことを。

同年の7月28日に、26歳に1ヵ月足りない年齢になっていた三男フィリップがパドヴァで一人前の医師 (medicus) になった。やがて、彼は〔医師としての腕前〈技能〉について〕公〔世間〕で最高の信用と賞賛 (gratus publicae summa cum laude) 得て、今や故人となってしまった父親の〔医師としての〕立場にまで上り詰めた。彼に神のさらなる恩恵と祝福があらんことを。そして彼が自立した生計が可能になりますように。

同年の9月4日に、私の愛しい弟〔三男のフィリップ〕がアウクスブルク市に運良く、しかも無事な姿で帰ってきた。そして私の家に居候を決め込んだ。今や、彼に全能なる神のさらなる繁栄があらんことを。

◆1640年——私：33歳、三男：27歳、八男：21歳、四女：19歳

この年の3月23日に、八男カールは〔ヴェネツィア市の前記の〕都市貴族マテオ・シュミット殿の従者 (Diener) になるべく、彼の許を訪れた。シュミット殿は〔カールを従者として採用し、諸々の〕便宜を与えた。すなわち、6年間、従者に必要な食料と衣服〔の提供〕を約束したのであった。

同年の7月12日に、私の弟〔三男で、医師の〕フィリップが、貴族 (Edlen) の名誉をもち、徳の篤い娘アンナ・オイフロジーナ (Anna Euphrosina) ——〈彼女は今は亡き貴族で、博学な医師ルーカエ・マツシュペルガー殿 (Lucae Matsperger) の一人娘〔したがって、唯一の相続人〕〉——と〔アウクスブルク市の北、65kmに位置する〕ネルトリンゲン市で婚約し、そして

ゲオルク・ハウフ (Georg Hauf) という聖なる教区牧師 (H. Pfahern) を介して、同市の教会で結婚の誓約を交わした。彼ら〔若き〕2人に神の祝福と幸福そして永久の命があらんことを。

同年の8月4日/14日に、私の愛しい弟で医師である三男フィリップがネルトリンゲン市で〔改めて〕上記のマツシュペルガー一家の娘と結婚式 (Hochzeit) を挙げ、さらに質素な教会で〔神の〕祝福を受けた。またN・コベルト (Kobelt) が経営する雄牛亭 (bei Ochsenwirth) で、披露宴が催された。彼ら〔若き〕2人が共に末永く、しかも愛情に満ちた平和な生涯を送り、さらにすべての財産を入手できますように。

同年の8月21日に、妹〔四女の〕ヘレーナが、〔ネルトリンゲン市に新居を構えた〕医師である三男フィリップの許に滞在した。妹は、それ以前は、私の許〔アウクスブルク市〕に2年と2週間、滞在していた。

◆1641年——私：34歳、三男：28歳、八男：22歳、四女：20歳

この年の3月25日に、私の最愛の妻エリザベートが夕方7時15分前〔6時45分〕に第一子たる娘を出産した。この娘は弱々しく、〔それゆえに〕急いでその場で洗礼〔私洗礼〕が行われ (notgetauft)、アンナ・マリアと命名された。〔同席していた〕医師のポール・イエニシュ氏 (Herr Doctor Paul Jenisch) が〔この娘に〕白粉などを顔に塗った。翌26日に〔残念ながら〕娘は神の御許に召され、3月28日に私の両親が眠っている聖シュテファン教会の墓地の中に埋葬された。〔こうすることで〕私たちがこの〔亡くなって〕天使〔になった娘〕に〔いつでも〕直ちに (ehest) 会えることができますように。また〔娘が〕神と共にキリストの御許で永遠にあらんことを。

◆1643年——私：36歳、三男：30歳、八男：24歳、四女：22歳

この年の10月28日 (水曜日) —— 〈この日は聖シモニスとユダの祭日〉——の昼1時半頃に、私の最愛の妻が第二子たる息子を出産した。星座は牡牛座 (Zeichen des Stier)。

この息子は夕べの説教の後、私たちの福音教会〔聖アンナ教会 (Evangelischen Colegio)〕の講堂で行われた聖なる洗礼〔の際の命名〕式に

参加して、フィリップ・ジークムント (Phlipp Sigmundt) と命名された。彼の代父は〔上記の医師〕ポール・イエニシュ医学博士 (M.D.) と私の最も親しい人物であるミヒヤエル・ミュラー (Herr Michael Miller) 氏、代母はアンナ・マリア・ジークムント・ナターニン婦人 (Frau Anna Maria Sigmundt Natanin) である。私たちに神の聖なる魂、恩恵そして祝福が授かりますように。アーメン (Amen)。

◆1644年——私：37歳、三男：31歳、八男：25歳、四女：23歳

この年の2月12日 (金曜日) の午後6時半に、私の愛しい幼い息子〔長男〕フィリップ・ジークムントが再び神の御許に召された。そして2月15日に、彼の姉〔長女のアンナ・マリア〕そして私の両親が埋葬されている聖シュテファン教会の墓地に埋葬された。息子の魂は確実に神の御手の中にあり。〔まだ生きている〕私たちも将来〔息子が生きている〕神の世界 (Zeit) へ受け入れられんことを。アーメン。

同年の3月20日に、八男カールが、彼の後見人 (Padron) たる〔前記のヴェネツィアの都市貴族〕マテオ・シュミットが破産し、さらにカール自身も他に奉公先をもっていなかったために、再びヴェネツィアからアウクスブルク市に戻り、そして彼が別な領主を探すまでの間、私の家に居候していた。〔7年後の〕1651年に彼は再び、以前の奉公先のマテオ・シュミット家に奉公することになった。

同年の5月28日/6月7日に、〔1640年から三男フィリップの新居に居候していた〕私の妹〔四女〕ヘレーナがヨハン・ジークムント・ヴェクセラ (Johann Sigmundt Wechseler) ——〈彼の職業 (Kunst) は薬剤師 (Apotecker) で、25歳〉——と、ネルトリンゲン市の教会で婚約をした (copulirt)。また同市の主要な〔聖ゲオルク (St. Georg)〕教会で祝福を受け、さらにN・コベルト氏が経営する雄牛亭で結婚式を挙げた。この〔若き〕2人に神の祝福と恩恵があらんことを。アーメン。

◆1647年——私：40歳、三男：34歳、八男：28歳、四女：26歳

この年、私マテウスは1640年から6年間にわたりH・メルキオール氏 (Melchior) との〔インスブルク市から南に、90kmに位置する北イタリ

アの] ボルツァーノ (Botzen) への芳香ブドウ酒交易⁽⁷⁴⁾ (lidel Handtlung) を再度中止し、その旨を彼に伝えた。これに対して、彼は契約証書に従い、1647年11月27日に私の申し出を受け入れた。私たち〔の商会〕は30年戦争と大規模な〔商会の〕破産のために、多額の損失を被った。しかし、誰もが、私たちと同様に、〔相手に〕自らの救済〔損害賠償〕を求める (zu adossirn) ことはしなかった。双方に、神の救済によって、名誉を保ち、他の方法で日々の糧にありつけますように。

◆ 1648 - 49年——私：41～42歳、三男：35～36歳、

八男：29～30歳、四女：27～28歳

1648 - 49年〔の2年間〕、〔前年度に多額の損失を被った〕私は、商人フリードリヒ・ヴァルター (Herr Friedrich Walther) 殿の事業〔=商業 (negotio)〕で助手 (Assistente) とし働いた。そこでは、過酷な商旅を命じられ、少なからざる生命の危険やその他の嫌悪するような事に直面しながらも、それをこなしていた。そして、この〔過酷な〕商旅に対して、ヴァルター殿からは光栄にも〔それなりの報酬が支払われたので〕、私は報われた。そして、1649年12月31日までという債務証書〔Rever〕に従って、私はヴァルター商会を〔無事〕退職したのであった。

◆ 1650/51年——私：43/44歳、三男：37/38歳、八男：31/32歳、

四女：29/30歳

この年に、私は私の貴重品を含む財産と引き換えに〔自ら商会を立ち上げ〕、再びある取引を企画した。そして、私はハンス・バプティスタ・シオーラー (Hanns Babtista Schorer)、ゲオルク・ツェラー (Georg Zeller) そしてアレクシウス・エッガー (Alexius Egger) から〔漂白していない〕粗製の亜麻 (roche Leinbat) を購入することに成功した。

◆ 1652年——私：45歳、三男：39歳、八男：33歳、四女：31歳

この年の5月8日に、私はアウクスブルク市の福音主義派の市参事会 (Magistrat) から、〔ルター派が支配的な〕マイセン地方、ザクセン地方そしてチューリンゲン地方〔へ派遣された。この派遣の目的は、これらの地方〕で、アウクスブルク市内にある我々〔福音主義派〕の聖十字架教会の

再建のために寄付金 (Beysteur) を調達する (prochurirn)⁽⁷⁵⁾ ことであった。満足のいく成果を上げたこともあり、ありがたい事に6月20日にアウクスブルク市に無事に戻ることができた。

以下は〔三男で医師の〕フィリップ・ヘーヒシュテッターが彼の正妻 (Ehefrau) オイフロジーナ・マツシュペルガーとの間に授かった〔9人の〕子どもたち〔の名前と生年月日〕である。

- ・長男：フィリップ・ルーカス……1642年11月15/29日
- ・長女：マリア・エリザベート……44年 3月 8/18日
- ・二女：アンナ・オイフロジーナ……45年 9月 2/12日
- ・二男：ヨハネス・フィリップ……48年 4月 1/11日
- ・三男：ゲオルク・フリードリヒ……50年 4月 2日
- ・三女：アンナ・マリア……51年 9月 3/13日
- ・四女：マリア・ザローメ……53年 3月 31日
- ・四男：ヨハン・マテウス……55年 7月 6日
- ・五女：アンナ・オイフロジーナ……57年11月11日

◆1658年——私：51歳、三男：45歳、八男：39歳、四女：37歳

この年の8月11日に、私の妹〔=四女〕ヘレーナが死亡した〔享年37歳〕。彼女はネルトリンゲン市の〔薬剤師〕ハンス・ジークムント・ヴェクセラーの正妻であった〔彼女は23歳で結婚したので、結婚生活は14年間であった〕。

彼女は、すでに、1人の幼い娘〔=長女〕——〈洗礼の際に、オイフロジーナ・ヘレーナと命名された〉——を出産していた。しかし、彼女のお腹の中にはもう1人がおり、この子どもが原因で、彼女は体力を失い、死亡した。彼女の魂は神に捧げられた。

上記の子どもの他に、以下の3人の子どもたちが、彼女の死後に、残された。

- ・長 男：ヨハン・ジークムント
- ・幼い娘：アンナ・ドロテーア
- ・幼い息子：ステファヌス

同年に、八男カールは領主ヨハン・アンドレアス・リヒター (Herr Johann Andreas Richter) への奉公〔助勢／合力〕のため、ウィーンへ赴く。この奉公こそが、神が彼に使命として与えたものであった (erküset)⁽⁷⁶⁾。

◆ 1659年——私：52歳、三男：46歳、八男：40歳、義兄弟：40歳

この年の1月11/21日に、義兄弟のヨハン・ジークムント・ヴェクセラ―〔40歳〕がバーバラ婦人 (Frau Barbara) ——〈彼女は、この時、すでに故人で、元市長であったヨハン・クリストフ・マルティヌス (Joh. Christoph Martinus) の未亡人であった。また彼女の実家の姓 (eine gebirne) は、プフィスター・ツウ・ポプフィンゲン (Pfisster zu Popfingen) であった。彼女の年齢は 36歳前後であった〉——と2度目の結婚、すなわち、再婚をした。この2人に神の祝福があらんことを。

◆ 1661年——私：54歳、三男：48歳、八男：42歳、義兄弟：42歳

この年の10月6/16日に、義兄弟ヴェクセラ―の妻バーバラが第一子たる息子を出産した。そして聖なる洗礼で、ハンス・ヤーコプ (Hans Jacob) と命名された。この嬰兒に神の聖なる魂、恩恵そして祝福があらんことを。

——以下、日記の182～198ページには、記載されていない。——

——日記の終了——

注 記

——Ⅱ. 史料について (編者の序言より)——

- (1) グリンメルハウゼンの代表的な作品としては『阿呆物語』がある。この訳書 (全3巻) として岩波文庫版 (望月市恵訳、2010年) と東西出版社版 (関口存男訳、1948 - 49年) の2種類がある。
- (2) この一文は第3巻の結語からの引用である。〔原注5〕(S.182)。
- (3) これらの著作が出版されたのは1674年である。Gabriele von Trauchburg, on der ökonomischen zur intellektuellen elite-akademiker in der oberdeutschen familie hoehstetter, in; *Zeitschrift des Historischen Verreins fur Schwaben* (以下、ZHV.S.と略記する), 90.Bd., 1997, S.115.

——Ⅲ. 近世アウクスブルクの医師の日記——

第1章 「ヘーヒシュテッター家の家譜」

- (4) ヨアヒム・ヘーヒシュテッター1世は1522年当時、アントウィルペン支店の支配人であり、1522年にランゲンマンテル家のアイテルハンス (Eitel Hans) の娘アンナと結婚していた (ASL., S.504)。なお、このアイテルハンスは1528年5月に再洗礼派として、アイセンホ

- ルン市（フッガーの都市）で処刑される。O. Nübel, *Das Augsburger Kaufherrenengeschlecht Hoehstetter und die Restitution König Christians II. von Danemark*, in: *ZHVS*, 73.Bd., 1973, S.145.
- (5) ヨアヒム・ヘーヒシュテッター1世と北欧（デンマーク王家）との経済関係がニibelによって指摘されている。その契機は、当時のデンマーク国王クリスチャンセン2世の国外追放であった。すなわち、当時、都市や市民に好意的な政策を取っていた国王クリスチャンセン2世が、これに反発した貴族たちによって1523年に追放され、姻戚関係にある皇帝カール5世の低地地方に逃亡を強いられた。皇帝は同国王を支持し、軍隊を派遣して、国王の復権を目指す、この実行に不利な要素が判明する。その一つが同国王側の資金不足である。この点で、1525年以降、ヨアヒムは同国王と資金面で支援する。これがもつて、同国王の復権後、同国の鉱山業の経営を支配する (*Ibid.*, S.126-129)。
- (6) ヨアヒム・ヘーヒシュテッター2世は1572年に、フィリップ・ケーニツヒとその親族たちと商会を新たに起業した。このフィリップとは1581年までパートナーであった。また1581年以降は、フリードリヒ・レンツを共同経営者とした。M. Häberlein, *Hatt das glücklich wunderbarlich mit uns spilt. Joachim Hoehstetter d.j. (1523-1597) in der Geschäftswelt des 16. Jahrhunderts*, in: *ZHVS*, Bd.95., 2002, S.61-63.
- (7) このルーカスはもともとニュルンベルク市出身者である。彼は1519年にライプツヒ市の市民権を取得し、1527年以降はザクセン地方の銅取り引きに従事していた。したがって、ヨアヒム2世はドロテアとの結婚によって、中部ドイツの最も有力な鉱山業者と親族的関係を結ぶことになった (*Ibid.*, S.57)。
- (8) 夫のカスパールは結婚2年後に、彼の実父の奉公人を、夜、公道で殴りつけたために拘束された。この背景には、父親と息子との間に深い対立が存在していた。このため、ヨアヒム2世はエッティンガー家の内紛に巻き込まれてしまう (*Ibid.*, S.67-68)。
- (9) このトビアス・ハーマンは、五女フィリピーナの夫となるイェレミアス・ハーマンと兄弟である。ハーマン家は1590年代初期の頃からアウクスブルク市で羊毛商人として活動し、同家の財産は増加した（1604年と1614年の徴税簿から）。しかし、30年戦争発生後は、経営的に苦しくなり1621年に破産した。このため、同家は商人寄合いから排除された (*Ibid.*, S.71)。
- (10) 日記執筆者のフィリップ2世は十二宮による表記を好んで利用しているが、驚くべきことに、しばしば今日の占星術とは大きく異なる。たとえば、このアリアの場合、乙女座（8月24日～9月23日）と思われるのだが、彼はさそり座（10月24日～11月22日）と記している〔原注14〕(S.184)。
- (11) 注(9)を参照。
- (12) Wolfgang Reinhard (Hg.), *Augsburger Eliten des 16. Jahrhunderts*, Berlin 1996, S.121によると、結婚した年は1588年と1年ずれて記されている。
- (13) 彼女が再婚した年も1604年とこれまた1年ずれて記されている (*Ibid.*, S.121)。
- (14) M. Häberlein, *op. cit.*, S.71.
- (15) 彼は1538年にアウクスブルク市の都市貴族に列せられた。彼は、自らは商業活動に従事せず、同市のさまざまな商会に投資する投資家であった。同家とヘーヒシュテッター家は1570年から共同経営の形をとる (*Ibid.*, S.60-61)。
- (16) 彼は1603年にアウクスブルク市の商人寄合いのメンバーに加わったものの、1628年に破産の憂き目にあう (*Ibid.*, S.71)。
- (17) 原注17 (S.185)を参照。

第2章 「フィリップ2世の青春期」

- (18) 彼の実名はM.ダービッド・ビストリウスである。また彼は1606年から聖十字架教会の牧師になり、1619年に死亡した〔原注18〕(S.186)。
- (19) フィリップ2世の学位取得に尽力した人物は、彼の2人の甥（Paul u.Hans Ludwig）の友人で医師でもあったフェリックス・プレッター（Felix Pletter）であった（Gabriele von

Trauchburg, *op. cit.*, S.114)。

- (20) 彼は5回、同大学医学部の学部長職を5回歴任し、1622年に死去した〔原注19〕(S.186)。

第3章 「フィリップ2世の結婚および家族について」

- (21) この Hinschweren なる語彙は婚約 (Verlobung) の意味である。〔原注20〕(S.186)。
(22) グリム (Grimm) に従えば、満月を意味する。またバラケルスス (Paracelsus) に従えば、新月を意味する。〔原注23〕(S.188)。

第4章 「フィリップ2世時代のアウクスブルク市の諸物価の変動について」

- (23) H・ミッタイス (世良晃志郎・広中俊雄共訳) 『ドイツ私法概説』創文社、1961年、127-131ページ。夫婦の財産は所有権の点ではまだ分離されていたが、管理・運用の点では夫の手中にあり、1つの管理統一体と認識されていた。
(24) Bortzen とは、現代語の Reisig [柴の束] の意味である。今日でもシュワーベン地方では使用されている〔原注32〕(S.194)。
(25) アウクスブルク市の市場で売られていた穀物の多くが隣国バイエルンから、特に国境都市フリートベルク (Friedberg) の市場から流入していた。その理由はアウクスブルク市の多くの聖界施設や市民たちがバイエルン大公国に所領を所持していたからであると、1638年に、フリートベルク市参事会が主張していた。この点から、アウクスブルク市の生活必需品 (食料) はバイエルン大公国に依存しており、バイエルン国境の閉鎖という措置は、アウクスブルク市の死活問題であった (Bernd Roeck, *Buäcker, Brot und Getreide in Augsburg*, Sigmaringen 1987, S.86-90)。
(26) ドイツ語では「viele gulden, wenig zechinen」を意味する〔原注39〕(S.195)。
(27) この鉱脈は1521年に発見された。瀬原義生「中世末期・近世初頭のドイツ鉱山業と領邦国家」(『立命館文学』第585号、2004年)、136ページ。
(28) ASL, S.967。
(29) B. Roeck, *op. cit.*, S.121-122。
(30) 当時はパンの販売行為についても差別化が図られていた。たとえば、アウクスブルク市の住民は夏季では朝6時から、また冬季では7時から、そして祝祭日には10時からパンが買えたが、外国人は8時からであった。さらに凶作の年には同市住民に有利になるようにさまざまな制限が設けられた (B. Roeck, *op. cit.*, S.154-155)。
(31) 1622年の物価高騰期にアウクスブルク市へ穀物を供給した地域については、B・レックの図1 (B. Roeck, *op. cit.*, S.85のKarte1) の網掛け部分を参照。

第5章 「医師フィリップ2世の収入について」

- (32) 彼は1570年に生まれ、1635年に死亡した (ASL, S.888)。
(33) 彼は1611年に弟のサミュエルと共同で、アウクスブルク最大のジェノア向け亚麻布輸出商会を創設した。その後、彼らの他の兄弟イエレミアスとダニエルも商会に参加し、少なくとも1630年代まで商会は存続した (ASL, S.518)。
(34) 彼は1632-33年までアウクスブルク市の市長 (都市行政官) を勤め、1633年に死亡した (ASL, S.967)。
(35) この年の市長はベルンハルト・レーリンガー (Bernhart Rehlinger) である。彼の在任期間は、1624-32年そして1635-45年であった (ASL, S.967)。
(36) 彼は同『日記』の第6章「アウクスブルク市内外での政治経済状況」の中で、施療院ないし「巡礼者のための宿」の施工主として、その建設経費4,627グルデンを出資した人物は、同名の彼の父親 [1530-1584年 (†)] である。また父親は1580年に聖アンナ教会講堂の創設にも参加した。マルティン2世は1566年に誕生し、イタリアのルッカで商人としての教育を受けた。彼は1625年に死亡した (ASL, S.947)。

- (37) 同家は30年戦争の初期に急激に財産を減少させた。またスウェーデン軍がアウクスブルク市を占領した1632年に都市貴族に叙せられたが、1635年に皇帝フェルディナント2世の命によって、その叙任は取り消された (ASL., S.694)。
- (38) 注 (33) を参照。
- (39) curia という語句は本『日記』には3回出てくる。筆者はそれぞれ異なる意味で使用していた。まず「司教の館」の意味で、次に「スウェーデン軍の支配の下で機能していたカトリック系の都市政府」、最後に「都市参事会」の意味である。〔原注66〕(S.201)。

第6章 「アウクスブルク市内外での政治経済状況」

- (40) アウクスブルク市では1451年ないし1491年に布告した街路での乞食行為を禁止する法規が目に見える成果を上げなかったため、市参事会は金の分配をめぐる制度を確立する必要に迫られていた (ASL., S.230)。
- (41) これは新約聖書のマタイ伝25章「すべての民族を裁く」の一節である。たとえば、『新約聖書 共同良訳』（講談社学術文庫、1981年）、86ページを参照。
- (42) アウクスブルク市では1541年に乞食行為は禁止された。新たに設置された施物担当者が同市の1/3の地区で食料を配っていた。さらに凶作の年には、施物は個人的な給金 (Spende) で賄われた (ASL., S.230)。
- (43) 建築費の他に、その維持費としては、B・レックによると、同年4月8日の約200人の孤児に対する年間予算額は3237グルデンであった (B. Roeck, *op. cit.*, S.24)。
- (44) 注 (36) を参照。
- (45) 本文第5章「医師フィリップ2世の医師としての収入」の(B)「施療院での医療勤務と解雇通告そして復職」の1616年の項 (『本誌』第25号176ページ) を参照。
- (46) 本文第5章「医師フィリップ2世の医師としての収入」の(B)「施療院での医療勤務と解雇通告そして復職」の1630年の項 (『本誌』第25号176-177ページ) を参照。
- (47) 本文第5章「医師フィリップ2世の医師としての収入」の(B)「施療院での医療勤務と解雇通告そして復職」の1632年の項 (『本誌』第25号177ページ) を参照。なお、施物を取得できる条件は、1541年の「施物規定 (Almosenordnung)」によると、その対象者に少なくとも2人の子どもがいることである (B. Roeck, *op. cit.*, S.104)。
- (48) 古典として、C・V・ウェッジウッド著、瀬原義生訳『ドイツ三十年戦争』（刀水書房、2003年）を、またM. Häberlein, Augsburg im Dreißigjährigen, in; ASL., S.83-88の2冊を挙げておく。
- (49) 30年戦争期におけるフェルディナント2世の対応については、成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『世界歴史大系—ドイツ史1』山川出版社、1997年、第11章(469-507ページ)を参照。
- (50) M・ヘーバーラインによると、1619年末に、歩兵1,131人を、また騎兵110人を募集していた (ASL., S.83)。
- (51) 彼は1592年11月12日に生まれ、1644年10月12日に死亡した。彼はインゴルシュタット市とペルギア市 (Perugia) で勉強し、1617年のスペイン軍役に参加、1618年以降はカトリック連合 (リーグ: Liga) のために、皇帝軍の将軍として戦う。スウェーデン軍が退却した後、彼はアウクスブルク市の市長 (都市行政官) となるが、厳格な統治を強いたために、皇帝軍の間でも不満や反発が生じた。そのため皇帝は1636年4月30日に、彼をアウクスブルク市の司令官に降格させた (ASL., S.422)。
- (52) この記載はエズラ記にはなく、旧約聖書のヘブライ人の大預言者たるエゼキエル (Hesekiel) からのものである。鷲 (Adler) と獅子 (Lawe) はおそらく皇帝と北欧の獅子グスタフ2世・アドルフの暗示である。〔原注74〕(S.205)。
- (53) 押し寄せるスウェーデン軍からアウクスブルク市をどのようにして防衛するかが問題になった時、フィリップ2世〔日記の執筆者〕は、カトリック派で占める市参事会との協力関

- 係を拒否するなど、プロテスタント派の中でも、急進的な集団の指導者的存在であった。〔原注75〕(S.206)。
- (54) ここに記されているB・アルトリンガーなる人物は、前掲書(ウエッジウッド著)の中に描かれているJ・アルトリンガーと状況的に極めて類似した立場にいる(たとえば、前掲書の376-377ページなど)また1年のズレはあるものの、アルザス地方の状況なども356-357ページと類似している。
- (55) 彼はホーエンローエランゲンブルク(Hohenlohe-Langenburg)伯フリードリヒ・ゲオルク(1569-1645年)である。彼は1631年以降、スウェーデン軍に従軍し、シュワーベン管区の総名代(Generalstatthalter)であった。なお、顧問官にして主馬頭は、スウェーデンの宰相アレックス・オクセンシエルナ(Aex Oxenstirn)の息子ベネデクト・オクセンシエルナであった。〔原注76〕(S.206)。
- (56) 彼は皇帝フェルディナント2世の息子で、後の皇帝フェルディナント3世である。彼は1621年からハンガリー国王であった〔原注77〕(S.206)。
- (57) M・ヘーバーラインによると、1634年9月のネルトリンゲンの戦いでスウェーデン軍が敗北すると、皇帝軍はアウクスブルク市を攻囲した。これに対してプロテスタント派が多数を占める市参事会は包囲攻撃〔特に、兵糧攻め〕にできるだけ長く抵抗することを決定した。このために、アウクスブルク住民にとって30年戦争期の中で最悪の時期が始まる。すなわち、1634年から35年の冬にかけて、飢えに苦しめられた住民は犬、猫、鼠そして動物の皮や死体の一部ささ食べたと言われていた(ASL, S.86)。
- (58) 戦争勃発前に4万5,000人を数えた住民数は、今や1万6,432人にまで激減した。実に $\frac{1}{3}$ の人口がベストや飢えや戦争で消滅した。ただし、この現象が市内のすべての街区で等しく生じたのではなく、「貧しい」外郭市区で、たとえば、ヤーコフ外郭市区(Jakobenvorstadt)やフラウエン外郭市区(Frauenvorstadt)で著しかった。しかし、1635年から1648年までの市参事会はカトリック派が独占し、戦争以前とは異なり、夥しい数の、しかも貧しい移民をも市民として受け入れた。その多くはアウクスブルク市周辺の農村出身の独身女性であった。この時期に3,500人増加した結果、住民数は約2万人にまで回復した。この場合、市参事会が改めてカトリック政策を遂し、またアウクスブルク市周辺部は著しくカトリック教が浸透していたために、1645年までに住民総数に占めるカトリック教徒の割合は30%以上も増加した。そして1635年から45年までの10年間で、カトリック教徒は $\frac{1}{3}$ を占めたのに対して、プロテスタントは僅かに15%を占めたにすぎなかった(ASL, S.87)。
- (59) レーハーベアムの答えとは「私の父親はあなた方に負担(Joch)を重く課した。私もあなた方に負担をさらに多く課そうと思う。私の父親はあなた方を鞭で懲罰した。私もあなた方を棘のある鞭で懲罰しようと思う」というものである〔原注84〕(S.207)。
- (60) D・ヴェーバーとはM・フィリップ(Philipp)・ヴェーバーのことである。彼は1634年以降フランチェスコ会派の牧師であった。またイエニシュとはM・パウロ(Paulus)・イエニシュのことである。彼は1633年以降同会派の副牧師であった。この2人はアウクスブルク市の唯一の福音主義派の聖職者であった。彼らはさしあたり聖アンナ神学校の庭の広場での礼拝と福音主義派の住民のお世話だけが許されていた。このような状態は1649年まで続いた。1649年の聖霊降臨祭に、福音主義派の各団体(Gemeinde)は、聖十字架教会を除いて、彼らの従来教会で自由に礼拝を行うことが許された〔原注84〕(S.207-208)。
- (61) 本文第5章「医師フィリップ2世の医師としての収入」の(F)「カトリック教徒の支配下での収入」の1635年の項(『本誌』第25号179-180ページ)を参照。
- (62) たとえば、パンに対する消費税については、B. Roeck, *op. cit.*, S.124-127を参照。
- (63) 同家は16世紀後半から17世紀初期まで遠隔地商業(香辛料、木綿、絹、砂糖)と都市政策の分野で大きな役割を果たした。同家はアウクスブルク市のプロテスタントの指導的な代表者で、スウェーデン軍の別働隊として活躍する。その功に報いる形で、スウェーデン軍

の占領期(1632 - 35年)に都市貴族に叙され、またヤコブは市長(都市行政官)になると共に、スウェーデン国王からはバイエルン官房の所領〔ランツベルク近郊のドンネルスベルク(Donnnersberg bei Landsberg)に存在〕を与えられた。ただし、1635年以降に市の役職と所領が取り上げられ、彼の商会は破産し、彼自身も逮捕され、貧困状態の中で死亡した(ASL, S.849-850)。

(64) 同家は16世紀から17世紀かけて、政治的にもまた経済的にも卓越した大商人であった。オットー3世は1618年にクラフター一家出身の彼の妻の遺産のおかげで、アウクスブルク市で一番裕福な市民となった。ラウギンガー家は30年戦争後、かつての経済的な立場を失う(ASL, S.601-602)。

(65) 注(58)を参照。

(66) 中部ヨーロッパの大部分が危機に陥り、魔女狩りの大きなうねりに見舞われた1620年代に、ここアウクスブルク市ではただ1例の処刑が行われたにすぎない。それは、1625年フッケライに住んでいたドロテア・ブラウン(Dorothea Baum)が自分の娘によって訴えられ、斬首の刑に処せられた事例である。17世紀の後半、魔女を口実に逮捕や処刑が多発したにもかかわらず、ここ帝国都市は司教領とは幾分異なり、魔女狩りが激しく求められた地域ではなかった(ASL, S.84)。

第7章 「フィリップ2世の妻の親族の誕生年と死亡年について」

(67) このエーインガーなる人物はM. Christoph Ehingerであり、1617年から聖ウルリッヒ教会の牧師である〔原注103〕(S.212)。

第8章 「フィリップ2世の子どもたちへの教育について」

(68) ドイツ中近世の教育については、浅野啓子・佐久間弘展編著『教育の社会史—ヨーロッパ中・近世』(知泉書館、2006年)を、特に佐久間弘展「14～16世紀ドイツ市民の初等教育」(101-124ページ)を、またNotker Hammerstein(Hg.): Handbuch der deutschen Bildungsgeschichte, Bd. I 15. bis 17. Jahrhundert (Von der Renaissance und der Reformation bis zum End der Glaubenskämpfe), München 1996.を参照。

(69) 彼は1559年トロストベルク(Trostberg)で生まれ、1590年にアウクスブルクの市民権を獲得する。さらに1625年11月3日にアウクスブルク市で死亡する。彼は教会合唱隊の指揮者にして作曲家そして音楽教師であった(ASL, S.458)。

(70) 彼はアウクスブルク市の司書(Bibliothecarius)であり、また1617年からは聖アンナ教会の指導者(Rector)でもあった〔原注105〕(S.213)。

(71) 〔原注107〕(S.215)を参照。なお、成瀬治氏はこの勅令は、カトリック教会組織の立て直しというよりも、ハプスブルク家門勢力の拡張を意図したものであり、さらには「皇帝絶対主義」への傾向を示すものであった、と記している(成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『世界歴史大系—ドイツ史1』山川出版社、1997年、488ページおよび注16(505-506ページ)。

(72) 〔原注108〕(S.215)を参照。

(73) 同国王がアウクスブルク市に滞在したのは同年の4月24～26日と5月27日～6月2日の2回である。同国王はアウクスブルク市に忠誠を宣誓させ、同時にカトリック派の市参事会員と市当局の役人をプロテスタント派のそれに入れ替えさせた。そのため、新たに18家族を都市貴族に叙した(ASL, S.459)。

第9章 長男の手による補遺(1535 - 1661年)

(74) lidelなる語彙は果酒(Obstwein)、芳香ブドウ酒(Gewärzwein)を意味するlit(des)である(Matthias Lexers, Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch, Stuttgart 1979, S.128)。

(75) procurirenは現代ドイツ語ではverschaffenである〔原注115〕(S.219)。

(76) erkusetなる語彙は「神による人間に使命/運命などを与えるための神の選抜」を意味す

る erkesen [erwählen] である (August Lubben, Mittelniederdeutsches Handwörterbuch, Darmstadt 1979, S.103)。

索引

*索引中の①～③は、本訳の本誌掲載分冊番号—①—第24号(1)、②—第25号(2)、③—本号(3・完)を、後ろの数字はページ数を表す。

*各索引とも50音順。

人名索引

*索引項目は、家族名で引けるようにし、家族ごとにまとめた。また出身都市のうち、アウクスブルク市はA市、ネルトリンゲン市はN市と略記した。

◆ア行

- アイゼリン、フィリップ (Eiselin, Philipp) [書き方の教師] ③96
アイフラー、アンドレアス (Eyfler, Andreas) [父親の初婚の子、ヤコビーナの
後夫] ①123
アドルフ、グスタフ2世 (Adolf, Gustav II.) [スウェーデン国王] ②189、
③95
アプフェルフエルダー、フィリップ (Apfelvelder, Philipp) [A市の公証人、妹
の後夫] ①125
アルトリンガー、ベルンハルト (Altringer, Bernhart) [皇帝軍の将校]
②190
イエニシユ、M・P・(Jenisch) [A市のフランチェスコ会派の副牧師] ②192
イエニシユ、ポール (Jenisch, Paul) [N市の医師] ③100 - 101
イルスング (Ilsung) [A市の枢密顧問官] ②171
ヴァイス、ヨハネス (Weiss, Johanenes) [父親の初婚の子、ヤコビーナの
前夫] ①123
ヴァルター、フリードリヒ (Walter, Friedrich) [商人] ③102
ヴィースト、クリストフ (Wiest, Christoph) [ドイツ語学校の教師] ③94
ヴィルヘルム・フォン・ノイブルク、ヴォルフ (Willhelm von Neuburg, Wolf)
[皇帝派、宮廷伯] ②183
ヴィンターリン、フィリピーナ (Winterin, Philippina) [針仕事の指導者]
③90 - 91
ヴェクセラー、ヨハン・ジークムント (Wechseler, Johann Sigmundt) [N市の
薬剤師、義兄弟] ③101、103 - 104
その子ども
—ハンス・ヤーコブ (Hans Jacob) ③104

- ウーバー、D・(Weber) [A市のフランチェスコ会派の牧師] ② 192
- ヴェルザー、バーバラ (Welser, Barbara) [A市のカタリーナ女子修道院長]
② 175
- ヴェルザー、フリーデリヒ (Welser, Friderich) [A市の歩兵部隊長] ② 184
- ヴォルフエン・ツウ・アイスネン、ダビット (Wolfen zu Eisnen, David) [ヴェ
ネツィア市の領主] ③ 94
- ウルシュテット、ハンス (Ulstett, Hans) [A市の施療院の役職者] ② 176
- エーインガー、M・エリアス (Ehinger, M. Elias) [A市の教師兼司書] ③ 90
- エーインガー、M・クリストフ (Ehinger, M. Christoph) [聖ウルリヒ教会の牧
師] ③ 87
- エスターライヒャー、ダニエル (Osterreicher, Daniel) [施療院の古参役職者]
② 179
- エッガー、アレクシウス (Egger, Alexius) [商人] ③ 102
- エックハルト、バルヘルム (Ekhart, Barhelm) [個人的な家庭教師] ③ 92
- エッティンガー2世、カスパール (Oettinger der Jung, Caspar) [父親の初婚の
子、アンナの前夫] ① 121
- エブリング、C・シビッラ (Ebling, C. Sybilla) [私の子どもたちの洗礼立会人
(代母)] ① 130 - 139
- オクセンシエルナ、アレックス (Oxxenstirun, Alex) [スウェーデンの宰相]
② 190
- オリヴィエ、レアンドロ・ジオ・バティスタ (Olivieri, Leandro Gio Batista)
[ヴェローナ市の都市貴族] ③ 99

◆カ行

- ガイガー (Geiger) [第6学年担当教師] ③ 95
- カッツェンシュタイナー、エリザベート (Katzensteinerin, Elizabet) [聖カタリ
ーナ女子修道院尼僧] ② 175
- ガルトナー、オイフロジーナ (Gartner, Eufrosina) [父親の後妻] ① 123
- カルトシュミット2世、ジェロニムス (Kaltschmid der Jung, Jeronymus) [父親
の初婚の子ども、レギーナの夫] ① 122
- グムペルスハイマー、アーダム (Gumpelsheimer, Adam) [ラテン語学校の音楽
教師] ③ 88
- グムペルスハイマー、マルティン (Gumpelsheimer, Martin) [ラテン語学校の
第2学年、第7学年担当教員、音楽教師] ③ 88、90
- グラス、ヨハネス・ベルンハルト (Grass, Johannes Bernhart) [個人的な家庭教
師] ③ 90
- グリンメルスハウゼン (Grimmelshausen) ① 117
- ゲオルク、ハンス (Georg, Hans) [ヴェネツィア都市貴族] ③ 94
- ゲーベリン家 (die Gaebelin) [義兄弟ハイラートの妻の実家] ③ 86、88
- コベルト、N (Kobelt) [N市の雄牛亭の経営者] ③ 100 - 101

◆サ 行

- ザーラー、ヨハン (Saler, Johann) [個人経営の私塾教師、家庭教師]
③ 91 - 95
- ショーラー、ハンス・バプティスタ (Schorer, Hans Babtista) [商人]
③ 102
- ジークハルト、ハンス・ゲオルク (Sighart, Hans Georg) [A市の都市貴族、家主] ② 163
- ジッテハオザー、N (Sittihauer, N.) [A市の歩兵部隊長] ② 184
- シュスター、レオンハルト (Schuster, Leonhart) [書き方の教師] ③ 91
- シュタムラー (Stamler) [A市の都市貴族、投資家、1570年以降ヘーヒシュテッター家と共同経営]
—レオンハルト (Leonhart) [私の母方の祖父] ① 124
その子ども
—ヘレーナ (Helena) [私の母、私の妻の洗礼立会人 (代母)]
① 124、126、128、134
—ジークムント (Sigmundt) [長男の嫁の父親] ③ 98
その子ども
—エリザベート (Elisabethe) [長男の嫁] ③ 98
- シュティーレン、ブレイガー (Stielen, Breuger) [バプテスマ聖歌隊の指揮者]
① 126
- シュテングリン、ヤーコプ (Stenglin, Jacob) [A市の商人、破産者] ② 193
- シュテングェルン、アントーニオ (Stengeln, Anthonio) [教師] ③ 95
- シュトラオベ・フォン・ライプツヒ (Straube von Leipiz) [父親の妻 (初婚)の実家]
—ルーカス (Lucas) [父親の舅、ニュルンベルク市民] ① 121
—ドロテア (Dorothea) [父親の初婚の妻：8人の子ともを儲ける]
① 121
- シュミット (Schmidt) [私の妻の実家]
—老シックス (Six der altest) [妻方の曾祖父] ③ 85
その子どもたち [舅の兄弟姉妹]
—シックス (Six) [伯父] ③ 85
—アブラハム (Abraham) [伯父] ③ 85
—クリストフ (Christoff) [私の舅] ① 125、128、② 164、③ 85
その子ども
—アンナ・マリア (Anna Maria) [私の妻] ① 128 - 137、
② 164
—エリザベート (Elisabethe) [叔母] ③ 85
—カタリーナ (Katharina) [叔母] ③ 85
—マリア・イエラミアス (Maria Jeramias) [私の九男の洗礼立会人] ① 136

- シュミット、マテオ (Schmidt, Mattheo) [ヴェネツィア都市貴族] ③92 - 93、99、101
- シュメルツァー、カタリーナ (Schmeltzer, Katarina) [私の長男の洗礼立会人 (代母)] ①129
- シュルツァー、ヴォルフガング (Sultzer, Wolfgang) [A市都市貴族、私の長男の洗礼立会人 (代父)] ①129
- ゾーベル、マルティン (Zobel, Martin) [A市都市貴族、私の患者] ②178、181

◆タ行

- ツィークラー、アンナ (Ziegler, Anna) [聖カタリーナ女子修道院長] ②175
- ツェラー、ゲオルク (Zeller, Georg) [商人] ③102
- ティリー将軍 (Tilly) [皇帝軍の将軍] ②189

◆ナ行

- ナターニン、アンナ・マリア・ジークムント (Natanin, Frau Anna Maria Sigmundt) [ジークムントの代母] ③101
- ニッゲル、アブラハム (Niggel, Abraham) [書き方と算数の教師] ③91

◆ハ行

- バイエルン大公 (Fürst Bayern) [皇帝軍] ②170
- アルベルト (Albert) [カトリック陣営] ②183
- マクシミリアン1世 (Maximilian I) [カトリック陣営の指導者] ②183
- ハイポルト、N (Heippolt) [第3学年担当教師] ③90
- ハイラート (Heyrat) [義兄弟]
- アンナ・ゲーベレーリン [ハイラートの妻] ③86
- その子ども [甥、姪]
- アンナ・マリア (Anna Maria) [長女] ③86
- スザンナ (Susanna) [二女] ③87
- イエレミアス (Jeremias) [三女] ③87
- トビアス (Tobias) [六男] ③87
- ハンス・クリストフ (Hans Cristoff) [長男／二男] ③86
- ハンス・ジョルク (Hans Jerg) [五男] ③87
- マテウス (Mattheus) [四男] ③87
- マールクアルト (Marquart) [七男] ③87
- マルクス (Marx) [三男] ③86
- その子ども (4人)
- ヨーハン・バプティスタ (Johann Babtista) [四女] ③87

- バイール、イエーネス・ジェロニムス (Bayr. Jenes Jeronymus) [第2学年担当教師] ③90
- ハインツェルマン、N. (Heintzelmann) [ドイツ語学校の教師] ③88 - 89、93
- ハインツェルマン、ヨハン (Johann) [書き方の教師] ③92
- ハウフ、ゲオルク (Hauf, Georg) [教区牧師] ③100
- ハーゲル、H. (Haggel) [A市の薬剤師、家主] ②163
- バーバラ (Frau Barbara) [元A市長の未亡人] ③104
- ハプスブルク家 (Die Habsburg) [皇帝] ②172
- ーレオポルト大公 (Herzog Leopold) [オーストリア大公] ②184
- バーレル (Baler) [A市の都市貴族]
- ー老バーレル (der Alter) [私の在宅患者] ②178
- その子ども
- ーレオンハルト (Leonhart) [老バーレルの息子] ②178
- ハンガリー国王フェルデナント3世 (König von Ungarn) ②190
- ビーラー (Bihler) [A市の書記、法学博士] ②171
- ビーラー、ハンス・ジヨルク (Biler, Hans Jerg) [施療院の役職者] ②176
- フェルデナント2世 (Ferdinand II) [皇帝] ②183 - 184、③94
- フェルデナント、ギユンター (Ferdinandt, Guenter) [A市の騎兵隊長]
- ②184
- フッガー (Fugger) [A市の都市貴族、伯爵]
- ーオットハイニンリヒ (Ottheinrih) [皇帝軍の将校、A市の都市行政官]
- ②184
- ー老ハンス (der alter Hans) [都市行政官 (市長)、私の在宅患者]
- ②171、178 - 179、183
- ーヒエロニムス (Hieronymus) [伯爵、私の在宅患者] ②179
- ーマクシミリアン (Maximilian) [伯爵、私の在宅患者] ②179
- ブッヘリン婦人 (Frau Bucherin) [針仕事の指導者] ③89 - 91
- プフィスター、M・ダーヴィド (Pfister, M. David) [A市の聖十字架教区の牧師]
- ①127
- プフリーガー、ハンス (Pflieger, Hans) [私の妻の洗礼立会人 (代母)]
- ①128
- ブラッシュ、ダニエル (Brasch, Daniel) [第4、5学年担当教師] ③89、91
- フリードリヒ (Friderich) [第6学年担当教師] ③92
- ベイル、ジヨルク・ヤーコプ (Beirl, Jeorg Jacob) [A市の都市貴族、薬局の所有者 (家主)] ②164
- ヘーシェル、ダーヴィト (Heschel, David) [A市の都市貴族、教師] ①127
- ヘーシェル、ダニエル (Heschel, Daniel) [第8学年担当教師] ③90、95
- ベデッロー、マテオ・モリナーリ (Bedello, Mateo Molinari) [パドヴァ市の都市貴族] ③98

ヘーヒシュテッター (Hoechstetter) [A市の商人および医師]

—アンブोजウス1世 (Ambrosius I.) [同家の中興の祖、私の曾祖父]

① 108 - 111、120 - 121

その子ども

—アンブोजウス2世 (Ambrosius II.) [同家を破産させ、逮捕]

① 111

—ヨーゼフ (Joseph) [同家を破産させ、逮捕] ① 111

—ヨアヒム1世 (Joachim I.) [私の祖父、新たな独立家系の創設者]

① 112 - 113、120 - 121、126

その子ども

—アンブロジーナ (Ambrosina) [私の叔母 (二女)] ① 120

—イエレミアス (Jeremias) [私の叔母 (長女)] ① 120

—ダニエル (Daniel) [私の叔父] ① 120

—ヨアヒム2世 (Joachim II.) [私の父親] ① 120 - 125、128、

その子ども

— [初婚の子ども] その妻：ドロテア ① 121

・アンナ (Anna) [長女] ① 121 - 122

・フィリピーナ (Philippina) [五女] ① 122

・マグダレーナ (Magdalena) [三女] ① 122

・マリア (Maria) [二女] ① 122

・レギーナ (Regina) [四女] ① 122

・ヨアヒム3世 (Joachim III.) [長男] ① 122

・ヤコビーナ (Jacobina) [六女] ① 123

— [再婚の子ども] その妻：オイフロジーナ ① 123

・スザンナ (Susanna) [長女] ① 124

・ダーヴィト (David) [長男] ① 124

— [再々婚の子ども] その妻：ヘレーナ ① 124

・オイフロジーナ (Eufrosina) [長女] ① 124、126 - 127

・パウロ (Paulus) [二男] ① 125

・フィリップ (Philipp) [長男] ① 124 - 125

・フィリップ2世 (Philipp II.) [三男・本人：1579 - 1635] ① 125 - 137、② 163 - 164、175 - 182、189、191 - 192、③ 88 - 97

その子ども—妻：アンナ・マリア ① 128、③ 97

・アンナ・マリア (Anna Maria) [長女] ① 129、③ 88 - 91、97

・イエレミアス (Jeremiasu) [七男] ① 133

・オイフロジーナ (Euphrosina) [五女] ① 135

・ジヨルク・ウルリッヒ (Jerg Ulrich) [五男]

- ① 132
- ・スザンナ (Susana) [三女]
 - ① 130 - 131, ③ 89 - 92, 97
- ・トビアス (Tobias) [四男] ① 131 - 132
- ・ハンス・カール (Hans Carl) [八男]
 - ① 133 - 134, ③ 92 - 99, 101, 104
- ・ハンス・ヨアヒム (Hans Joahim) [二男]
 - ① 130
- ・フィリピーナ (Philippina) [二女] ① 130
- ・ヘレーナ (Helena) [四女]
 - ① 134, ③ 92 - 94, 97, 101, 103
 - その子ども—その夫：ヨハン・ジークムント
 - ③ 101, 103 - 4人 ③ 103
 - オイフロジーナ・ヘレーナ (Euph. Helena)
 - ヨハン・ジークムント (Joh. Sigmundt)
 - アンナ・ドロテーア (Anna Dorothea)
 - ステファヌス (Stephanus)
- ・ヨハネス・クリストフォルス
 - (Johannes Christophorus) [九男] ① 136
- ・ヨハネス・バプティスタ (Johannes Baptista)
 - [十男] ① 137
- ・ヨハネス・マテウス (Johannes (=Hans) Mattheus)
 - [長男] ① 129, ③ 88 - 101
 - その子ども—妻：エリザベート ③ 100
 - アンナ・マリア (Anna Maria) ③ 100 - 101
 - フィリップ・ジークムント (Philipp Sigmundt) ③ 101
- ・ヨハン・バピスト (Johann Bapista) [六男]
 - ① 132 - 133
- ・ヨハン・フィリップ (Johann Philipp) [三男]
 - ① 131, ③ 89 - 101, 103
 - その子ども—妻：アンナ・オイフロジーナ (Anna Euphrosina) ③ 99, 103
 - 9人 ③ 103
 - アンナ・オイフロジーナ (Anna Euphrosina)
 - アンナ・オイフロジーナ (Anna Euphrosina)
 - アンナ・マリア (Anna Maria)
 - ゲオルク・フリードリヒ (Georg Friderich)
 - フィリップ・ルーカス (Philip Lucass)

- マリア・エリザベート (Maria Elisabeth)
- マリア・ザローメ (Maria Salome)
- ヨハネス・フィリップ (Johannes Philipp)
- ヨハン・マテウス (Johann Mattheus)
- ・マリア (Maria) [二女] ① 125
- ヨハン・フィリップ2世 (Johann Philipp II.) [甥、ローテンブルク市の
医師] ① 119
- ハンス・バティスタ (Hans Battista) [私の洗礼立会人] ① 125
- ベラー、フリードリヒ (Behler, Fridrich) [施療院の役職者、教皇主義者]
② 176、182
- ペリケオ、アーノルド (Pelliceo, Arnold) [第4学年担当教師] ③ 91
- ベルクミュラー、ヤーコブ (Bergmuller, Jacob) [巡礼の宿の新任医師]
② 182
- ヘルマン、モイゼス (Herman, Moyses) [第6学年担当教師] ③ 90
- ホーザー (Hoser) [A市の都市貴族、プロテスタント]
- サミュエル (Samuel) [施療院の古参役職者] ② 179
- ヤーコブ (Jacob) [施療院の役職者] ② 176、182
- ヨハネス・ヤーコブ (Johanes, Jacob) [A市の都市貴族] ② 177
- ボスケッティ、ピアージュ (Boscheti, Biagio) [ヴェローナ市の都市貴族]
③ 99

◆マ 行

- マイスター (Mayster) [聖カタリーナ女子修道院尼僧] ② 175
- マイリン、カタリーネン (Mayrin, Catharinen) [舅の母親] ③ 85
- マツシュペルガー (Matsperger) [N市の都市貴族、医師] ③ 100
- アンナ・オイフロジーナ (Anna Euphrosina) [私の三男の妻] ③ 99、
103
- ルーカエ (Lucae) [三男の妻の父親] ③ 99
- マヨリ (Mayori, M. Jos.) [聖アンナ教会のラテン語学校の教師] ① 127
- ミュラー、レオンハルト (Miller, Leonhart) [父親の洗礼立会人 (代父)]
① 120
- ミュラー、ミヒヤエル (Miller, Michahel) [ジークムントの代父] ③ 101
- ミンデラー、ライムンド (Minderer, Raimund) [私の友人、A市の医師]
① 119
- ムスウィクス・アウス・デム・ヴィンケル (Mussuicus aus dem Winkel) [A市
の統治者] ② 190
- メルキオール、H. (Melchior) [商人] ③ 101

◆ラ 行

- ランゲルマンテル、アンナ (Langenmantel, Anna) [私の祖母] ① 120、

- 126、132
 リヒター、ヨハン・アンドレアス (Richter, Johann Andreas) [ウィーン市の都市貴族] ③ 104
 リューリヒ、M・ヤーコプ (Ruelich, M. Jacob) [A市の教区牧師] ③ 86 - 87
 レーハベアム (Rhehabeam) [カトリック派の指導者] ② 192
 レーメン、D. (Remen) [教師] ③ 91
 レーム (Rhem)
 ールードヴィヒ (Luodvocus) [A市の市参事会員 (?)] ② 177
 ーレーミン、マルクス (Rhemin, Marx) [私の洗礼立会人 (代母)] ① 125
 レムボルト、ヨハン・ヤーコプ (Remboldt, Johann Jakob) [A市の都市行政官 (市長)] ② 171
 レーリンガー (Rehlinger) [A市の商人、都市貴族]
 ーアンナ (Anna) [私の祖母] ① 120
 ーヤーコプ (Jacob) [曾祖父] ① 120
 ーベルンハルト (Bernhart) [A市の市長] ② 178
 ルムラー、ヨハン・ウルリヒ (Rumler, Joh. Ulrich) [A市の都市貴族、医師、A医科大学の学部長] ① 128
 ローヴォルフ2世、マテウス (Rauwolf der Jung, Mattheus) [私の姉の夫、私の十男の洗礼立会人 (代父)] ① 124、126、137
 ローレンツェン家 (die Lorentzen) [私の三男の学友] ③ 93

事項索引

◆ア 行

アウクスブルク市

- ー居酒屋 (Schenke) ② 170
 ーヴェルタツハブルカー市門 (Wertachbrugger Tor) ② 193
 ー関税 (Zoll) ② 193
 ー教会 (Kirch) 他
 ー孤児院 (Waisenhaus) ② 176、179、181
 ー聖アンナ教会 (St. Anna) ① 126 - 127、129 - 137、③ 92、94、96、98、100
 ー聖ウルリヒ教会 (St. Ulrich) ③ 86 - 87
 ー聖カタリーナ教会 (St. katharina) ② 175
 ー聖十字架教会 (St. Kreuz) ② 183、③ 102
 ー聖シュテファン教会 (St. stephan) [墓地] ① 125、127、129、131、③ 86 - 87、100

- 聖母教会 [大聖堂] ② 183
- ドミニコ会派の礼拝堂 (Die Cappell zu den Dominik) ① 121
- プファフエン教会 (Pffaffen) ② 182
- 施療院 [貧者たちの病院] (Almosenhaus) ② 176 - 177、179、181、192
- 絞首台 (Galgen) ② 187
- 公職追放 (die Ausstoßung aus einem Amt) ② 189
- 指揮官 [統治者] (commandans) ② 190
- 市参事会 (Curia/Rat/Magistrate) ② 177、180 - 185、189、191、193 - 195、③ 102
- 市参事会員 (Senatus/Ratherr) ② 183、189 - 190、
- 市政府 (Obrigkeit) ② 172
- 市門の鍵 (Schlüssel des Stadtstor) ② 195
- 自由都市 (Libera Civitas) ② 185、188
- 商人の寄合部屋 [会館] (Kauffleutestuben) ① 128、③ 86
- 消費税 [間接税] (Ungeld) ② 193
- 都市貴族寄合い選挙 [選出] (Stubenwahl der herrlichen Patricii) ③ 98
- ペルラッハ塔 (Perlachturm) ② 183、194
- 隷属都市 (Serva Civitas) ② 188

医学関係

- アウクスブルク医科大 (die medizinische hochschule) ① 119、128
 - 学部長 (Dekan) ① 119、128、
- 医学著作 (全3巻) と医学研究論文 ① 118 - 119、② 177 - 178
- 医師 (Arzt) ① 119 - 120、127 - 128、③ 96、99 - 101
 - 「巡礼者の宿」の医師 ② 176、182
 - ヒポクラテス学派の医師 (hipocratius medicus) ② 177
- 医師登録台帳 (Matricula Medecorum) ① 127
- 医療勤務と解雇 (die 較ztliche Dienst u. die Enturlaubung) ② 175 - 176、192
- 炎症熱 (hizig Fieber) ① 134
- 黄疸 (Gelbsucht) ① 132
- 主治医としての報酬 (Honorar des Hausarzts) ② 176 - 179
- ペスト (pestis) ③ 93 - 96
- 麻疹 (kindsblatter) ③ 87
- 薬剤師 (Apoth eker) ③ 101、103
- リュウマチ痛 (Reissen) ③ 92

◆カ行

貨幣 (Geld)

- グルデン貨幣 (Gulden) ① 109 - 111、114、② 163 - 171、173 - 174、
176 - 179、181、194 - 195、③ 88、91 - 92、94 - 95
- クロイツ貨幣 (Kreuz) ② 163 - 171、173 - 176、③ 91
- ターラー貨幣 (Taler) [約3マルク銀貨に相当] ② 172 - 174、177 -
179
- バッツェン貨幣 [4クロイツ貨幣に相当] (Batzen) ② 165、168 - 171、
173
- ペーニツヒ貨幣 (Pfennig) ② 174、194 - 195
- ライヒス・ターラー貨幣 (Reichstaler) ③ 93

教育 (Erziehung)

- 医学博士号 (学位) 取得 (Erwerbung des Dr. med. Titels)
 - フィリップ2世 [バーゼル大学] ① 127
 - ヨハン・フィリップ [パドヴァ大学] ③ 98
- 書き方 (Schreiben) ③ 89 - 96
- 学校閉鎖 [プロテスタント派の] (die Sperre der Schule) ③ 94
- 家庭教師 (privat paedagogus/praeceptor domesticus/privat praeceptor)
 - ③ 88 - 90、92 - 95
- 家庭教師への謝金 [報酬] (Belohung) ③ 92、94 - 96
- 裁縫学校 [針仕事] (Nehet) ③ 89 - 92
- 算数 (Rechnen) ③ 91、96
- 時間外学習 (nach der Stundt) ③ 90
- 上級学校 (die hohe Schule) ③ 92、96
- 初等科学年
 - 第1学年 (die erste Schule) ③ 88、92
 - 第2学年 (die andere Schule) ③ 88、90、92
 - 第3学年 (die dritte Schule/Class) ③ 89、90、93
 - 第4学年 (die vierte Class) ③ 89、91、94
 - 第5学年 (die finfte Class) ③ 89、91
 - 第6学年 (die 6 Schule) ③ 90、92、95
 - 第7学年 (die 7 Schule) ③ 90、93
 - 第8学年 (die achte Schule) ③ 90
- ドイツ語学校/教師 (die teutschen Schule/-Meister) ③ 88 - 89、
91、93 - 94
 - 討論 [対話] 術 (dialectica) ③ 91、94
- バーゼル大学 [医学部] (Basel Uni.) ① 127
- パドヴァ大学 [医学部] (Padova Uni.) ③ 98
- 反復練習 [補修学習] (die Repetition) ③ 89 - 92
- 表現方法 [言葉遣い] (stylus) ③ 91
- 福音学校 (聖アンナ教会付属学校) ③ 93
- ラテン語学校 (die lateinische Schule) ③ 88、91

軍事（戦争）関係

- 軍事顧問 (commissari militares) ② 185
- 軍事 [軍役] 税 (Contribution) ② 190、192 - 193、195 - 196
- 軍隊 [兵隊] (militis/Soldaten) ② 185、188
 - アウクスブルク市民軍 (die Bürgerschaft in Rürtung) ② 183
 - 騎兵隊 (Reiterer) ② 184、
 - 騎兵隊隊長 (Rittermeister) ② 184
 - 皇帝軍 (kayser. Soldaten) ② 190、192、194 - 195
 - スウェーデン軍 (schwedische guarnison) ② 190、192
 - 隊長 (Hauptmann) ② 184
 - バイエルン軍 (Bayr. soldaten) ② 189、190、192、194 - 195
 - 歩兵 [部隊] (Fußvolk/ Fußtruppen) ② 184
 - マスケット銃兵 (Msuqethrer/Musketier) ② 183
- 尖塔 (Thuren) ② 184
- 宿営 [地] (Quartier) ② 184、195
- 城塞 (Schlosser) ② 172
- 戦利品 [略奪物] (praeda) ② 185
- 戦争 (Krieg) ② 194
- 大砲 (Kanone/Geschütze) ① 118、② 188
- ドイツ農民戦争 (Bauernkrieg) ② 172
- 刀剣 (gladius) ② 188
- 暴力行為 [悪事/非道] (iniquitas/nefas/ferocitas) ② 185
- ライン・アム・レッヒの会戦 (1632年) (Rain am Lech) ② 182
- 稜堡 (Pastei) ② 184

経済社会変化

- 悪貨 (ergern) ② 168 - 169
- 家屋価値の下落 (Entwertung des Hauses) ② 193
- 賭け事 [博打] (Scholderei) ② 168
- 貨幣改悪 [鏹銭] (Kipperey) ② 168 - 169
- 飢餓 (Hunger) ② 190、191
- 飢饉 (fames) ② 180、182、187
- 給料 (pecunia) ② 180
- 公定価格 (Taxe) ② 171 - 172
- 自由売買 [市場価格での売買] (Freikauf) ② 172
- 住民数の激減 (die starke Abnahme des Bewohner) ② 193
- 成り上がり者 (Emporkömmling) ② 168
- 贋金造りの時代 (Kipperzeit u. Wipperzeit) ① 117
- 破産 (没落) 者 (Bankrotten) ② 168、193、③ 101 - 102
- 物価高騰 [インフレーション] (Inflation) ② 167、170 - 171、173、

- 貧困 (paupertas) ② 187、191
- 物不足状態 (Mangel an Proviante) ② 174、176、185
- ローマ教会財産回復勅令 [1629年] (Restitutionsedikt) ③ 94

結婚と死 (Heirat u. Tod)

- 寡婦 (Witwe) ① 125、② 173、③ 97、104
 - 妊娠能力のある寡婦 (die betriebte Witwe) ③ 86
- 結婚式 (Hochzeit) ① 128、③ 86、98、100 - 101
- 結婚式場 (披露宴) (Hochzeitsmahl) [N市の雄牛亭] ③ 100 - 101
- 婚約 (Verlobung) ① 128、③ 86、99、101
- 再婚 (Wiederverheiratung) ① 121、123、125、③ 104
- 再々婚 (Wiederholtverheiratung) ① 124 - 125
- 産褥による死 (Tod von Kindbett) ① 126、③ 103
- 出産 (Geburt)
 - 死産 (Todgeburt) ① 123
 - 早産 (die vorzeitige Geburt) ① 132、136

◆サ 行

宗教 (Religion)

- 悪魔 (Deifel [Teufel]) ② 168、185
- イエズス会 (jesuiticus) ② 177、182、188
- 偽りの兄弟 [カトリック教徒] (pseudofratrum/Hypokrit) ② 180
- 神の御言葉 (das heilige Worth Gottes) ② 194
- カトリック教徒 (catholica) ② 194
- 教皇主義者 [カトリック教徒] (papisten/pontificius) ② 182 - 183、189、194
- 救済主キリスト (christus redimentis) ② 187
- キリストの同情と慈悲深さ (christi midercordia et clementia) ② 187
- 原罪 (Peccatum) ② 189
- ゴルゴン [メドウサ] (gorgon) ② 187
- 賛美歌 (laudantium/Kirchenlied) ② 187
 - 25番 ③ 86 - 87
 - 73番 ③ 87
- 宗教裁判官 [異端審問官] (inquartirens/inquisitors) ② 175、196
- 天国 (caelum) ① 133 - 134、② 187
- ニムロド [戦争と狩猟の神] (nimurodi) ② 187
- 福音主義者 (evangelischen) ② 182、190、19 - 195、③ 98、102
- プロテスタント (Protestant)
 - 都市貴族 (Herr) ② 182
 - 奉公人 (Dienstbote) ② 182
 - 手工業者 (Handwerksleute) ② 175、182
 - ルター派 (Lutherischen) ② 175、183、186、189、191

- フランシスコ教団 (Minoriten) ② 192
- 職業と身分 (Beruf/Stand)**
- 貴族 (Adel) ② 185 - 186
 - 男爵 (Baron) ② 185 - 186
 - 伯爵 (Graf) ② 185 - 186
- 刑吏 (Henker) ② 187 - 188
- 公証人 (notar) ① 125
- 皇帝 (Kaiser) ② 183 - 184, 186
- 強盗団 (Räuberbande) ② 193
- 孤児 (Waise/Orphan) ② 189, 193
- 公僕 [書士] (Beamte=publicus) ③ 90
- 市長 (Bürgermeister) ② 177 - 178, 189
- 商人 (Kaufmann) ② 168, 180, 192
- 守備隊 (Garnison) ② 190, 195
- 市民 (Bürger) ② 172, 180, 183
- 従者 (Gefolge/Diener) ③ 94, 99
- 収入役 (Einnnehmer) ② 171
- 宿営係り (Quartieramt) ② 195 - 196
- 製塩業者 (Salzfertiger) ② 164
- 聖界諸侯 (die geistliche Fürsten) ② 183
- 聖歌隊 (Kirchenchor) ① 126
- 精錬業者 (Schmelzter) ② 169
- 世俗諸侯 (die weltliche Fürsten) ② 183, 186
- 中流階層 (Mittel (klasse)) ② 174
- 徒弟 (junge Geselle [Lehrling]) ③ 88
- 仲買人 (Fürkaufner) ② 170
- 農民 (Bauer) ② 166 - 168, 172 - 173, 184, 186
- 判決執行官 (exsecutor) ② 188
- パン屋 (Bäcker) ② 172
- 法学博士 (Doctor juris.) ② 171
- 牧師 (Pfarrer) ① 134 - 135, ③ 86 - 87, 100
- 病人 (Kranke) ② 189
- 貧民 (die Armen) ② 174, 191
- 富裕者 [金持ち] (der Reiche) ② 168, 189
- 触れ役 (praeconius) ② 189
- 平民 [臣民] (der gemeiner Mann/subditus) ② 168, 185 - 186, 191
- ユダヤ人 (Jude) ② 168 - 169
- 生活物資**
- 麻のハンカチ (Taschentuch des Hanf) ② 176

- 亜麻 [粗製の—] (die ungehobelte Hanf) ③ 102
- 衣服と靴 (Kleider u. Schuh) ② 172
- エンドウ豆 (Erbse) ② 173、195
- 斧 (Axt) ② 165
- 岩塩 (Steinsalz) ② 194
- 穀物 (Getreide) ② 164 - 167、173 - 174、176、195 - 196
 - シュワーベン産の— (schwäbische) ② 170
 - バイエルン産の— (bayerische) ② 174
 - 燕麦 (Hafer) ② 174、194 - 195
 - 大麦 (Gereste) ② 166、170、174、194 - 195
 - 小麦 (Weizen) ② 166、169 - 170、174、176、194 - 195
 - 飼料 (Futter) ② 170
 - ライ麦 (Roggen) ② 173 - 174、176、194
- 穀物価格 (Getreidepreis) ② 169
- 穀物市場 (Getreidemarkt/Schrand) ② 164、171
- 穀物畑 [内畑、外畑] (Getreidefeld) ② 166
- 穀物の種子 (Getreidekern)
- 冬穀物の— (Wintergetreide) ② 166
- 夏穀物の— (sommergetreide) ② 166
- 豊作 (die gute Ernte) ② 167、196
- 柴の束 (Reisig) ② 165 - 166
- 卵 (Ei) ② 173、194
- 鉞 (Hackbeil) ② 165
- 肉 (Fleisch)
 - 牛 (Rind) ② 170、173 - 174、194 - 195
 - 子牛 (Kalb) ② 170 - 171、174、194 - 195
 - 羊 (Schaff) ② 171、173 - 174
 - 豚 (schwein) ② 170
 - 雌鳥 (Henne) ② 171
- パン (Brot) ② 166
 - 巻きパン (Semel) ① 128、② 172 - 173
- ビール (Bier) ② 173 - 174、194 - 195
- 薪 (Brennholz) ② 165、194 - 196
- 木材 (Holz)
 - シュワーベン産 (schwäbische) ② 165、171、194
 - バイエルン産 (bayerische) ② 165、171、194
- 木材市場 (Holzmarkt) ② 165 - 166、172
- ラード [豚の獣脂] (Schweineschmalz) ② 168、170、195 - 196
- ワイン (Wein) ② 170、173 - 174、184、194 - 195
- ワイン市場 (Weinmarkt) ② 183

星座 (Sternbild)

- 一射手座 (Himmel des Schutzen) ① 129、③ 87
- 一魚座 (Fische) ① 122、131、132、③ 87
- 一牡牛座 (Stier) ③ 100
- 一牡羊座 (Widder) ① 123、130、134、135
- 一蟹座 (Kreb) ① 124、130
- 一サソリ座 (Skorpion) ① 122、125、129、137
- 一獅子座 (Löwen) ① 122、124
- 一天秤座 (Waage) ① 132、136
- 一双子座 (Zwilling) ① 130、③ 86
- 一水瓶座 (Wassermaus) ① 131
- 一山羊座 (Steinbock) ① 120、128、133、134、③ 86

◆タ 行

賃貸家屋 (Mietshaus)

- 一賃貸住宅 (Mietshaus) ② 163 - 164、③ 98
- 一転居費用 (Wohnungswechselgeld) ② 163
- 一家賃 (Mietzins) ② 163、164
- 一家賃収入 (das Einkommen des Mietzins) ② 193

◆ハ 行

- 一ハンガリー人 (Ungar) ② 168

◆マ 行

ミュンヘン市

- 一居酒屋 (Wirtshaus) ② 172
- 一食料輸入 (Zufuhr von Getreide) ② 171

村 (Dorf) ② 172、184、194

マゲデブルク市

- 一食料輸入 (Zufuhr von Getreide) ② 167

◆ラ 行

ライプツィヒ市

- 一大市 (Mess) ② 168

地名（国別）索引

*索引には、その地名が所属する国名の略号（ドイツはD、イタリアはI、スペインはS、オーストリアはO、スイスはSw、フランスはF）を付記した。

◆ア行

- アイヒシュテット (D: Eichstatt) ②172
アウクスブルク (D: Augsburg) ①107ff. 119、121、127 - 128、②166、
171、174、177 - 178、180、182 - 184、186、188 - 190、193 - 196、③90、
94 - 96、98、100、102
アフリカ (Africa) ②188
アルゴイ地方 (D: Allgäu) ②190
イングランド [イギリス] (England) ①120
イタリア (Italia) ①121、②170、188、③94、98
イベリア (S: Iberia) ②188
ウィーン (O: Wien) ②168、③104
ヴァルターブルク (D: Wartaburg) ②184
ヴェネツィア (I: Venezia) ②168、③92 - 95、99、101
ヴェローナ (I: Verona) ③99
オーストリア (Austria/ostereich) ②172、184

◆カ行

- ケンプテン地方 (D: Kempten) ②190

◆サ行

- ザクセン地方 (D: Sachsen) ③102
ザンクト・ガレン地方 (Sw: St. Gallen) ②195、③96
シュワーベン地方 (D: Schwäben) ②166、169 - 171、185
スイス (Switzerland) ②170、③86
スウェーデン (Sweden) ②182、186、189
ストラズブール (F: Strasbourg) ③96

◆タ行

- チューリッヒ (Sw: Zürich) ③96
チューリンゲン地方 (D: Thüringen) ③102
ドイツ (Deutschland) ①121、②168、170、182、186、192、194

◆ナ行

- ニュルンベルク (D: Nürnberg) ①121、②172

ネルトリンゲン (D: Nörtlingen) ① 119、③ 99 - 101、103
ノイブルク (D: Neuburg) ① 123

◆ハ行

バイエルン地方 (D: Bayern) ② 167、169 - 170、172 - 174、184
バーゼル (Sw: Basel) ① 127、③ 96
パドヴァ (I: Padova) ① 127、③ 98 - 99
ハンガリー (Ungarn) ② 170
フィレンツェ (I: Firenze) ③ 94、96、98
フィンランド (Finland) ② 192
フランス (France) ① 121、② 170
ポエニ [カルタゴ] (Punier/Carthago) ② 188
ポーランド (Poland) ② 170
ボルツァーノ (I: Bolzen/Bolzano) ③ 102

◆マ行

マイセン地方 (D: Meißen) ③ 102
マグデブルク (D: Magdeburg) ② 167
マルセイユ (F: Marseille) ① 120
ミュンヘン (D: München) ② 172、184、194
メミンゲン地方 (D: Memmingen) ② 190

◆ラ行

ライプツィヒ (D: Leipzig) ② 168、193、195
リンダウ (D: Lindau) ③ 95 - 96
レーゲンスブルク (D: Regensburg) ② 190、192
ローテンブルク (D: Rothenburg) ① 119